―千葉市―

跡
跡
跡
跡
跡

遺
遺
遺
遺

遺
切
込
下
台

ノ
払
谷
寒

沢
下
乙
長
居

例　　言

1．本書は，千葉市若葉区に所在する沢遺跡と緑区に所在する下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡，花見川区に所在する居寒台遺跡の発掘調査報告書である。

2．沢遺跡の発掘調査は白井公民館建設に伴うものであり，下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡の発掘調査は農業基盤整備事業に伴うものである。また，居寒台遺跡の発掘調査は道路建設に伴うもので，いずれの調査も財団法人千葉市教育振興財団が千葉市より委託を受けて実施した。なお，千葉市文化財調査協会は平成14年３月31日をもって解散し，財団法人千葉市教育振興財団に業務が統合された。

3．本書に所収した遺跡の所在地・調査期間・調査面積・担当者は次の通りである。

⑴　沢遺跡

①　所 在 地　若葉区野呂町622番の一部

②　調査期間　平成14年12月１日～平成15年１月31日

③　調査面積　上層　451㎡／4,800㎡（確認調査）　330㎡（本調査）

　　下層　130㎡／4,800㎡（確認調査）

④　担 当 者　簗瀬裕一

⑵　下ノ切遺跡

①　所 在 地　緑区小食土町174番

②　調査期間　平成14年10月１日～11月29日

③　調査面積　697㎡（本調査）

④　担 当 者　白根義久

⑶　乙払込遺跡

①　所 在 地　緑区小食土町111番１他

②　調査期間　平成14年10月１日～平成15年１月31日

③　調査面積　335㎡／4,265㎡（確認調査）

④　担 当 者　白根義久

⑷　長谷下遺跡

①　所 在 地　緑区小食土町305番の一部

②　調査期間　平成14年10月１日～平成15年３月27日

③　調査面積　806.86㎡（本調査）

④　担 当 者　白根義久

⑸　居寒台遺跡

①　所 在 地　花見川区浪花町地内

②　調査期間　平成15年３月10日～３月14日

③　調査面積　50㎡（本調査）

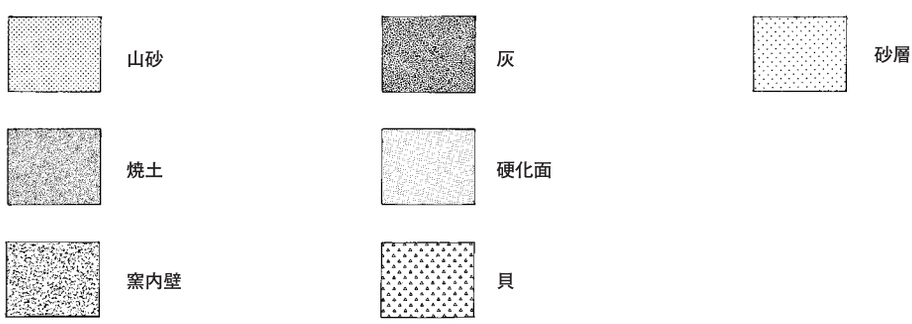
④　担 当 者　簗瀬裕一

4．整理作業及び本書の作成は，平成15年12月１日～平成16年３月31日に行い，古谷渉が担当した。
5．遺構の写真は発掘調査担当者が撮影した。遺物は青柳すみ江の協力を得て古谷が撮影した。
6．出土遺物及び調査記録は，すべて千葉市埋蔵文化財調査センターに収蔵保管している。
7．発掘調査の実施から報告書刊行に至るまで，下記の諸機関・諸氏のご指導・ご協力を賜った。記して謝意を表したい。（順不同・敬称略）

千葉県教育庁教育振興部文化財課，千葉市教育委員会生涯学習部文化課，千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課，千葉市建設局道路部道路建設課・街路建設課，小食土地区土地基盤整備事業推進協議会，簗瀬裕一（千葉市立加曽利貝塚博物館）

凡　　例

1．本書に掲載した遺構図等の方位は，公共座標（旧測地系）の北を基準としている。
2．土層及び遺物の色を記号で示してある場合は，農林水産省監修「新版　標準土色帖」による。
3．本文中の挿図の縮尺は原則として以下のとおりであるが，各図中に縮尺を示してある。遺構実測図の縮尺は，竪穴住居跡：1/60　カマド：1/40　土坑：1/40　溝及び道路跡：1/40または1/80　炭窯：1/40　埋没谷1/400である。遺物実測図の縮尺は，沢遺跡が，陶磁器復元：1/4または1/2　陶磁器破片：1/3　鉄製品：1/3　土器復元：1/4　土器拓影：1/3　石器：4/5である。下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡が，土器復元：1/3　陶器復元：1/3　陶器破片：1/3　石器：1/3である。居寒台遺跡が，土器復元：1/4　土製品・石製品：1/3，石器：1/4である。
4．観察表の法量については，（ ）付きの口径・底径は復元値を，器高は残存値を示す。
5．図版中で使用したスクリーントーンは以下の通りである。



本　文　目　次

例言・凡例
目次
第１章　沢遺跡 …… 1
　1　調査に至る経緯 …… 1
　2　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 1
　3　概要 …… 1
　4　検出された遺構と遺物 …… 1
第２章　下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡 …… 13
　1　調査に至る経緯 …… 13
　2　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 13
　3　概要 …… 13
第３章　居寒台遺跡 …… 19
　1　調査に至る経緯 …… 19
　2　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 19
　3　概要 …… 19
　4　検出された遺構と遺物 …… 24
写真図版
抄録

挿　図　目　次

－沢遺跡－
第１図　沢遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 2
第２図　沢遺跡全体図及び基本層序 …… 3
第３図　沢遺跡土坑・道路跡実測図 …… 4
第４図　沢遺跡炭窯実測図(1) …… 5
第５図　沢遺跡炭窯実測図(2) …… 6
第６図　沢遺跡炭窯実測図(3) …… 7
第７図　沢遺跡炭窯・土坑実測図 …… 8
第８図　沢遺跡近世以降遺物実測図(1) …… 9
第９図　沢遺跡近世以降遺物実測図(2) …… 10
第10図　沢遺跡遺構外出土遺物実測図 …… 12
－乙払込遺跡，長谷下遺跡，下ノ切遺跡－
第11図　下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡と周辺の遺跡 …… 14
第12図　下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡の位置 …… 14
第13図　下ノ切遺跡全体図 …… 15

第14図　乙払込遺跡全体図 …… 16
第15図　長谷下遺跡全体図及び土坑・溝実測図 …… 17
第16図　下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡出土遺物実測図 …… 18
－居寒台遺跡－
第17図　居寒台遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 20
第18図　居寒台遺跡地形図 …… 20
第19図　居寒台遺跡全体図 …… 21
第20図　居寒台遺跡１号住居跡実測図 …… 22
第21図　居寒台遺跡１号住居跡出土遺物実測図 …… 23

表　目　次

－沢遺跡－
第１表　沢遺跡近世以降遺物観察表 …… 10
第２表　沢遺跡遺構観察表 …… 11
第３表　沢遺跡遺構外出土遺物観察表 …… 12
第４表　沢遺跡貝層サンプル観察表 …… 12
－下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡－
第５表　下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡出土遺物観察表 …… 18
－居寒台遺跡－
第６表　居寒台遺跡１号住居跡出土土器観察表 …… 24
第７表　居寒台遺跡１号住居跡出土土製品・石製品・石器観察表 …… 24

写真図版目次

－遺構写真－
写真図版１　沢遺跡(1)
写真図版２　沢遺跡(2)
写真図版３　下ノ切遺跡，乙払込遺跡
写真図版４　乙払込遺跡，乙払込横穴
写真図版５　長谷下遺跡
写真図版６　居寒台遺跡
－遺物写真－
写真図版７　沢遺跡近世以降遺物(1)
写真図版８　沢遺跡近世以降遺物(2)
写真図版９　沢遺跡遺構外出土遺物，下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡出土遺物
写真図版10　居寒台遺跡１号住居跡出土遺物

第１章　沢　遺　跡

１　調査に至る経緯

平成13年９月19日，千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課から白井公民館・図書館分館複合施設の建設を計画している千葉市若葉区野呂町622－１他（面積4,800㎡）について，「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて（照会）」の文書が，千葉市教育委員会教育長あてに提出された。これに対し，千葉市教育委員会生涯学習部文化課は現地踏査を行い，平成14年３月29日付けで対象地4,800㎡全域について埋蔵文化財が所在する旨を回答した。その後，埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ねた結果，事前に発掘調査を実施し，記録保存の措置を講じることとなった。発掘調査は財団法人千葉市教育振興財団に委託し，平成14年12月１日から平成15年１月31日まで実施した。（千葉市教育委員会生涯学習部文化課）

２　遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡は，鹿島川と都川の分水界となる標高約49ｍの台地上に位置している。周辺には縄文時代中期～晩期の貝塚集落が点在しており，北へ約800ｍの同一台地上には野呂山田貝塚が，南東へ約１㎞の鹿島川支谷対岸には八反目台貝塚が，西へ約１㎞の都川対岸の低位段丘上には川井貝塚が存在する。その他に縄文時代中～後期の中・小規模集落が点在している。南西へ約600ｍの谷津を挟んだ対岸台地上には駒込遺跡が，南へ約500ｍの同一台地上には野呂・宮ノ台遺跡が，北東へ約１㎞の鹿島川支谷対岸には芳賀輪遺跡が，南東へ約３㎞の鹿島川流域には（中野）僧御堂遺跡が存在する。

野呂山田貝塚，八反目台貝塚，川井貝塚や野呂・宮ノ台遺跡，（中野）僧御堂遺跡の貝層は鹹水性貝類が主体である。（中野）僧御堂遺跡から九十九里沿岸産と考えられる外洋性貝類が出土しているのに対して，その他の遺跡では東京湾産（都川河口域）と考えられる内湾性貝類が主体を占めている。

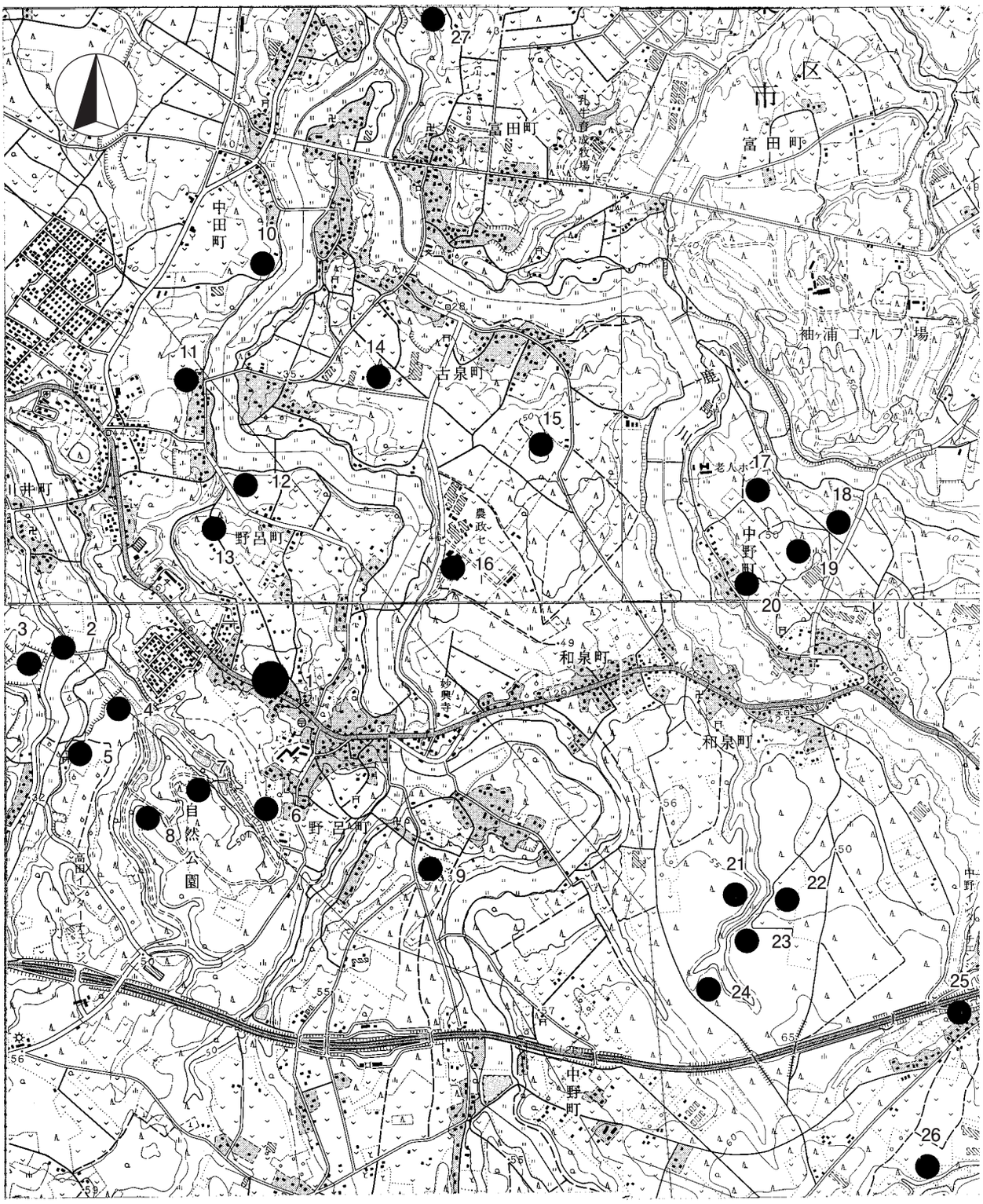
３　概要

今回の調査では，縄文時代土坑1基，中近世道路跡１条，近世以降の土坑１基，近世以降の炭窯９基が検出された。遺物は縄文土器（中期・後期・晩期），黒曜石製石鏃1点，平安時代の土師器が出土した。また，近世以降の土坑や炭窯からは陶器・磁器・瓦器・ガラス製品・鉄製品が出土した。

基本層序は，Ⅰ層：表土層　Ⅱａ層：黒色土層　Ⅱｂ層：暗褐色土層（新期テフラか？）　Ⅱｃ層：漸移層　Ⅲ層：ソフトローム層　Ⅳ～Ⅹ層：ハードローム層　Ⅳ層・Ⅴ層：波状帯　Ⅵ層：AT相当層　Ⅶ層：第２黒色帯上部　Ⅸ層：第２黒色帯下部　Ⅹ層：立川ローム層最下層である。Ⅱｂ層は縄文時代後期の遺物包含層である。

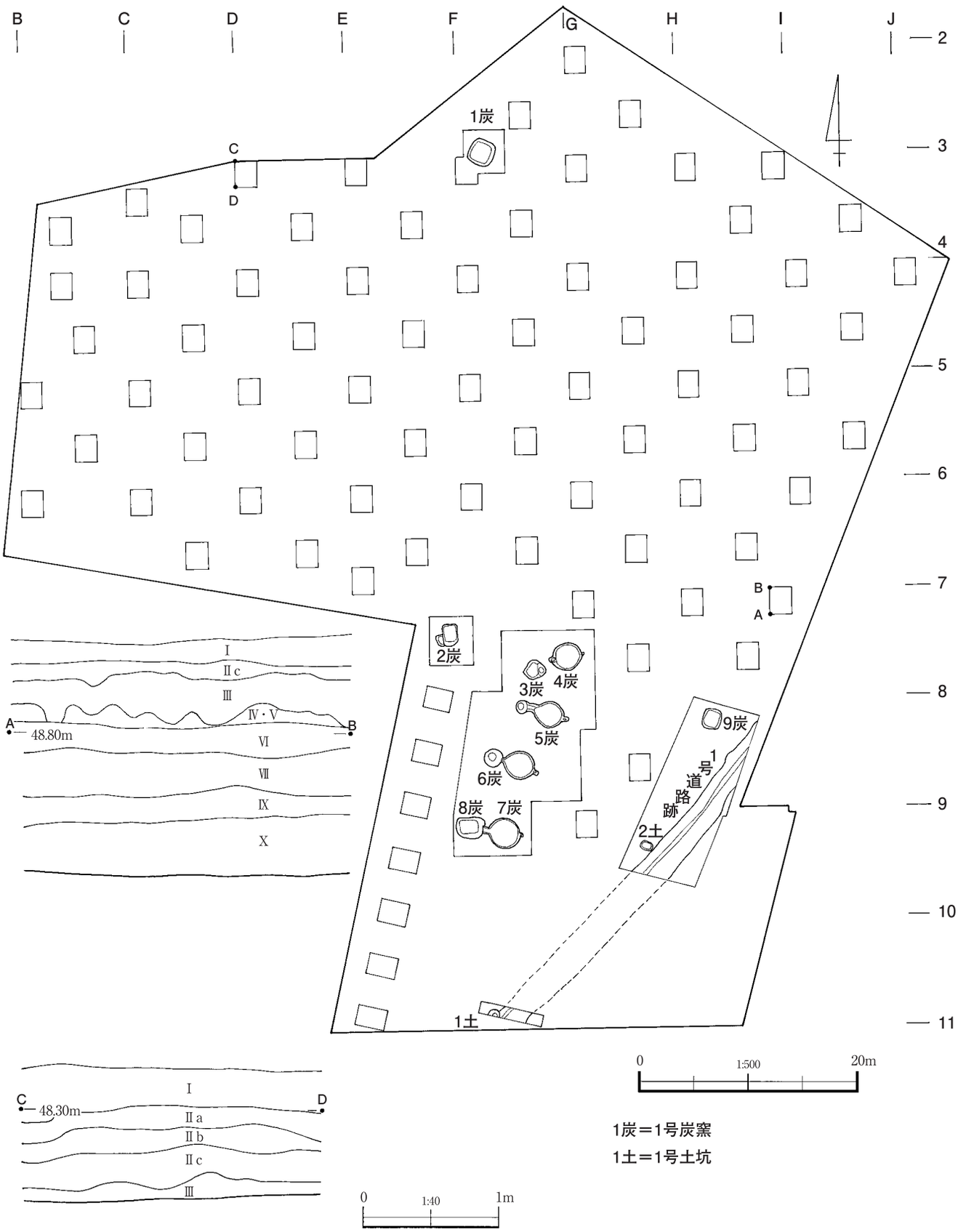
４　検出された遺構と遺物

１号土坑は，長軸（－）ｍ×短軸0.6ｍ×深さ１ｍで，遺物は出土していない。１号道路跡は，総延長（調査区内）35.5ｍ×最大幅2.8ｍ×深さ0.66ｍで，硬化面が２面存在する。

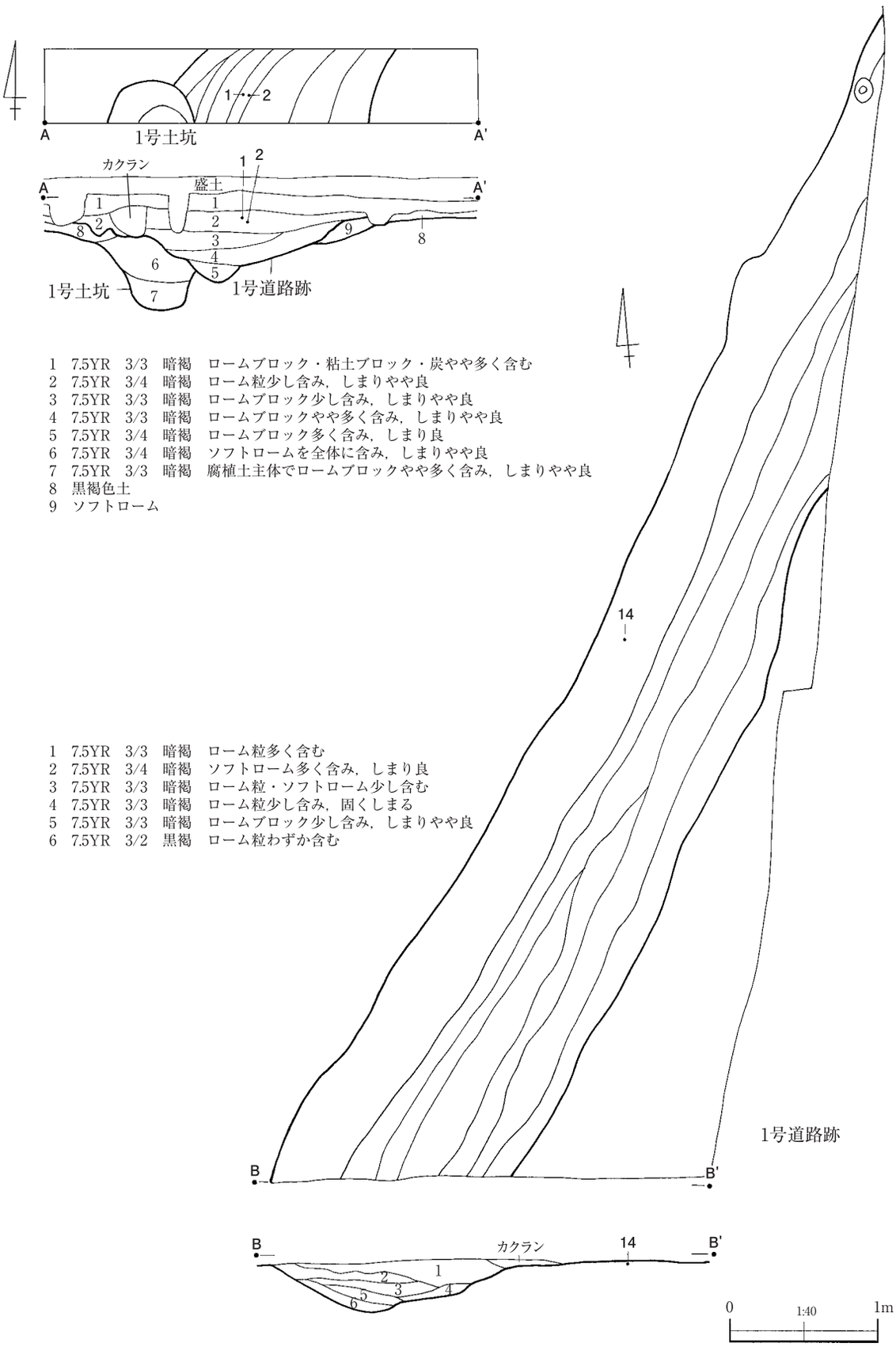


1．沢遺跡　2．川井遺跡（貝塚）　3．ヲフウデン遺跡　4．駒込遺跡　5．駒込南遺跡　6．野呂・宮ノ台遺跡
7．山ノ台遺跡　8．野呂・上ノ台遺跡　9．八反目台遺跡（貝塚）　10．権現堂古墳群　11．宮田遺跡
12．野呂山田遺跡（貝塚）　13．西奥前遺跡　14．姫塚遺跡　15．上人塚古墳群　16．芳賀輪遺跡
17．内駒込北遺跡　18．外堀込遺跡　19．内堀込遺跡　20．新田遺跡　21．芋ノ谷東遺跡　22．沢ノ台遺跡
23．沢ノ台南遺跡　24．蛇喰遺跡　25．（中野）僧御堂遺跡　26．西唐沢遺跡　27．荒句遺跡

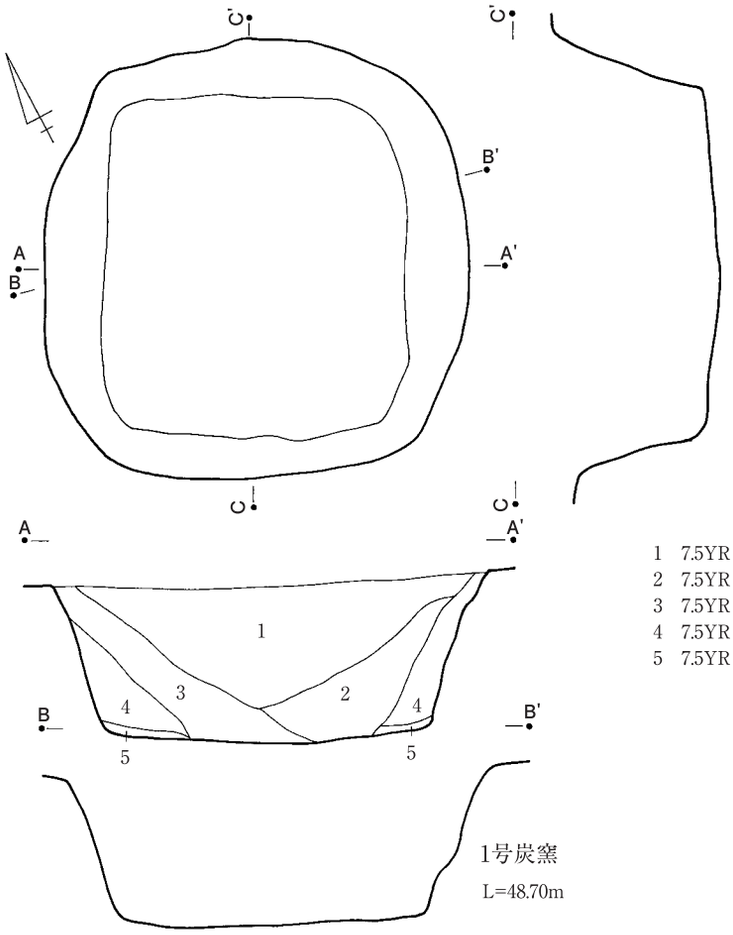
第１図　沢遺跡の位置と周辺の遺跡（1/25,000）



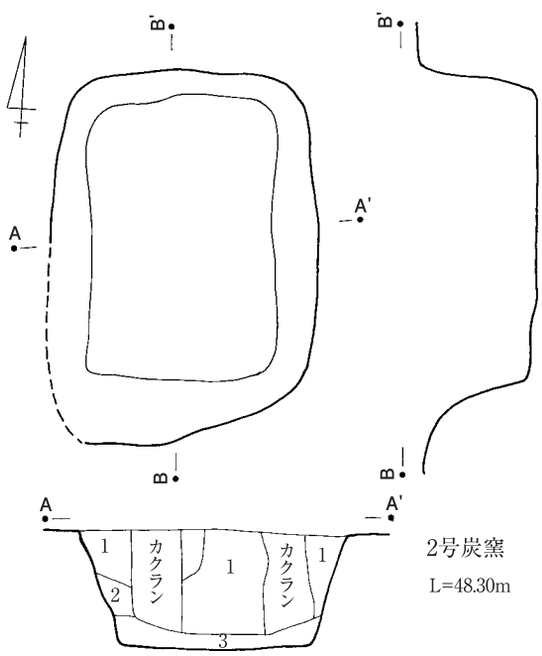
第２図　沢遺跡全体図及び基本層序



第３図　沢遺跡土坑・道路跡実測図



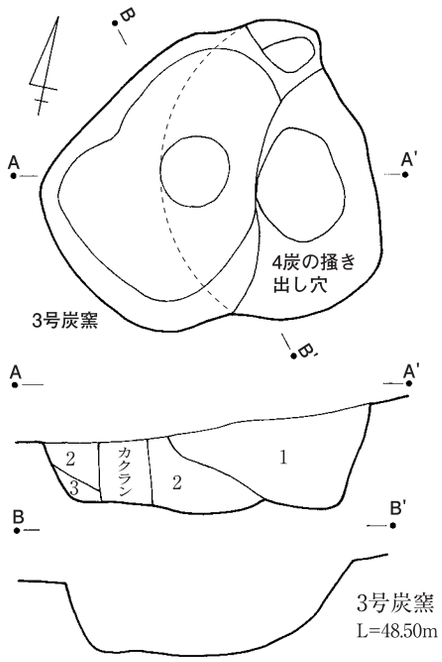
1　7.5YR　3/4　暗褐　ロームブロックを多く含む
2　7.5YR　3/3　暗褐　ロームブロックを少し含む
3　7.5YR　3/3　暗褐　ロームブロックを少し含む
4　7.5YR　3/4　暗褐　ローム粒を多く含む
5　7.5YR　3/3　暗褐　焼土を多く，炭を少し含む



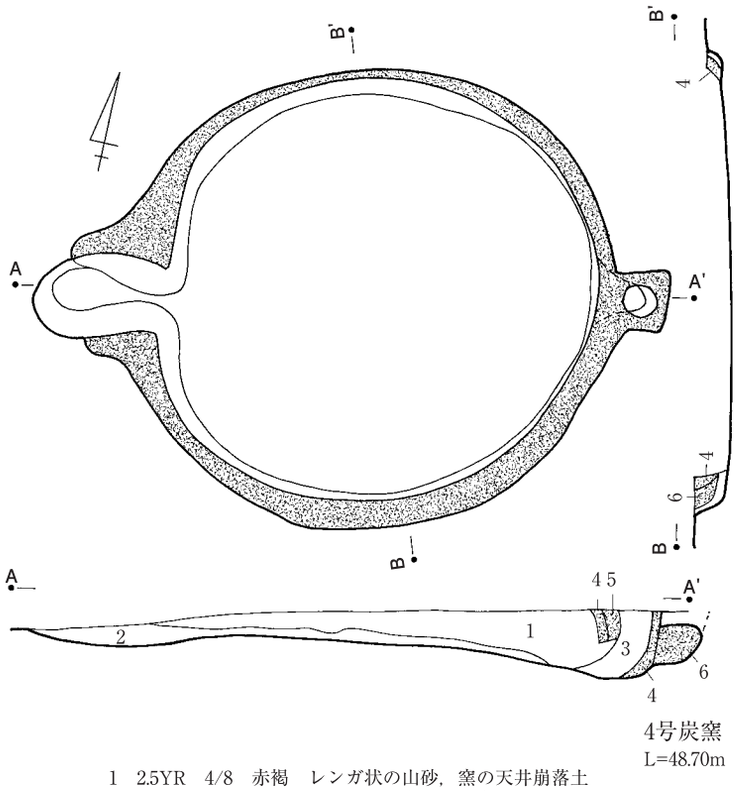
1　7.5YR　3/4　暗褐　ロームブロック・黒色土を多く含む
2　7.5YR　3/3　暗褐　黒色土を多く含む
3　7.5YR　3/4　暗褐　ロームブロックを多く，炭・焼土を少し含む

0　1:40　1m

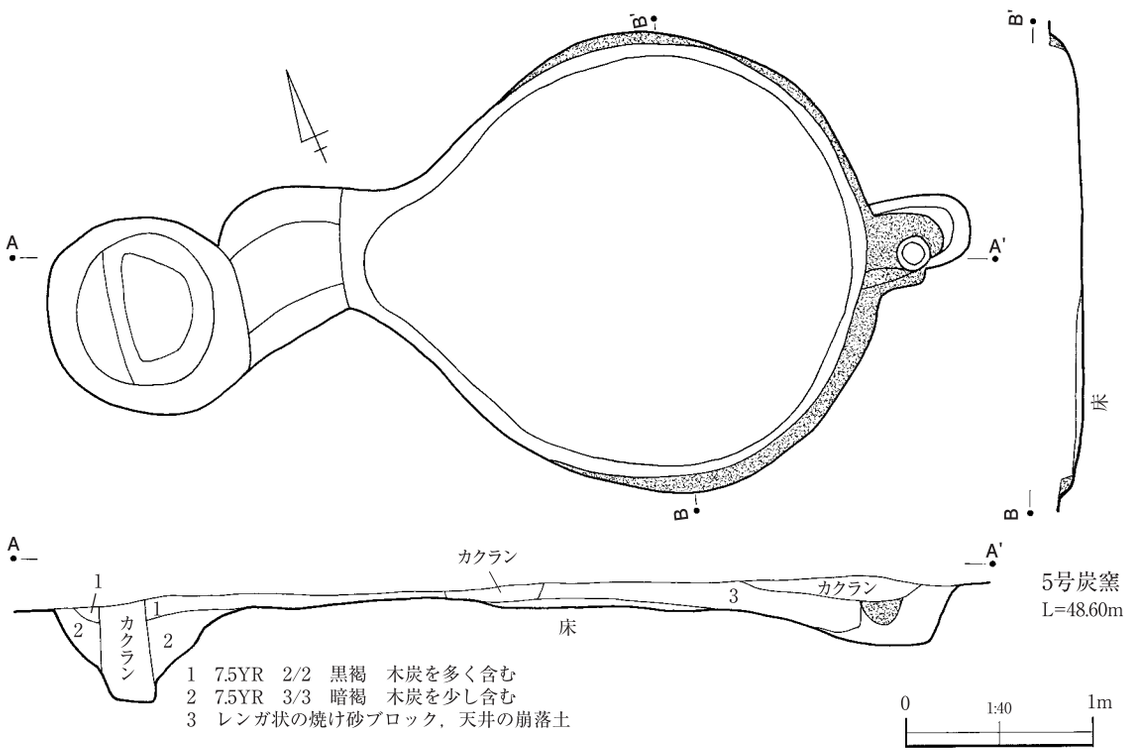
第４図　沢遺跡炭窯実測図(1)



1　7.5YR　3/3　暗褐　炭，粘土，窯壁ブロックをやや多く含む
　　(4炭の掻き出し覆土)
2　7.5YR　3/3　暗褐　炭を少し含む
3　7.5YR　3/3　暗褐　焼土をやや多く，炭を少し含む

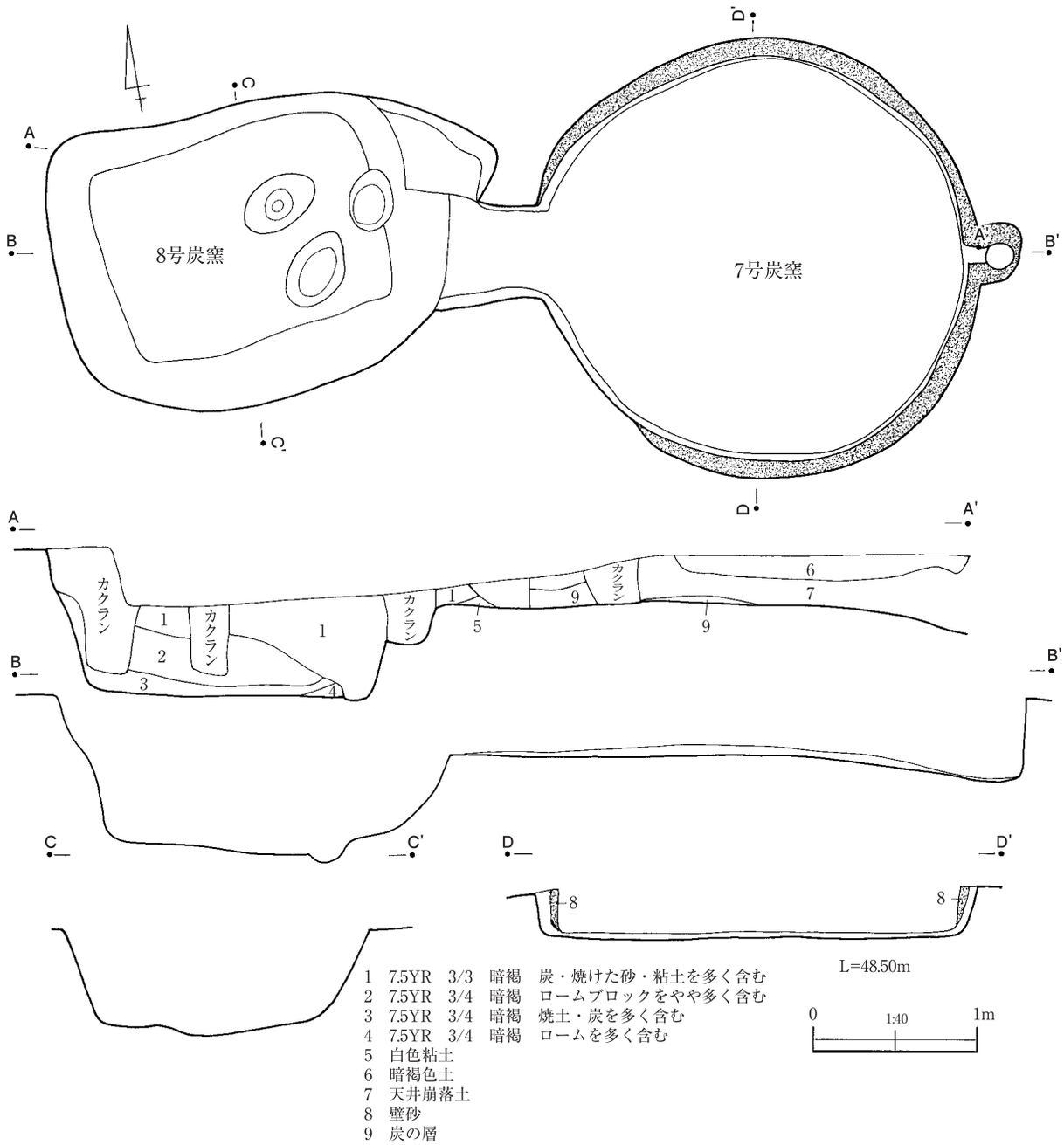


1　2.5YR　4/8　赤褐　レンガ状の山砂，窯の天井崩落土
2　7.5YR　2/1　黒色　砂まじりの木炭層，窯の底面
3　7.5YR　3/4　暗褐　ロームブロックを多く，焼砂を少し含む
4　黒色内壁
5　レンガ色焼砂
6　黄白色山砂



1　7.5YR　2/2　黒褐　木炭を多く含む
2　7.5YR　3/3　暗褐　木炭を少し含む
3　レンガ状の焼け砂ブロック，天井の崩落土

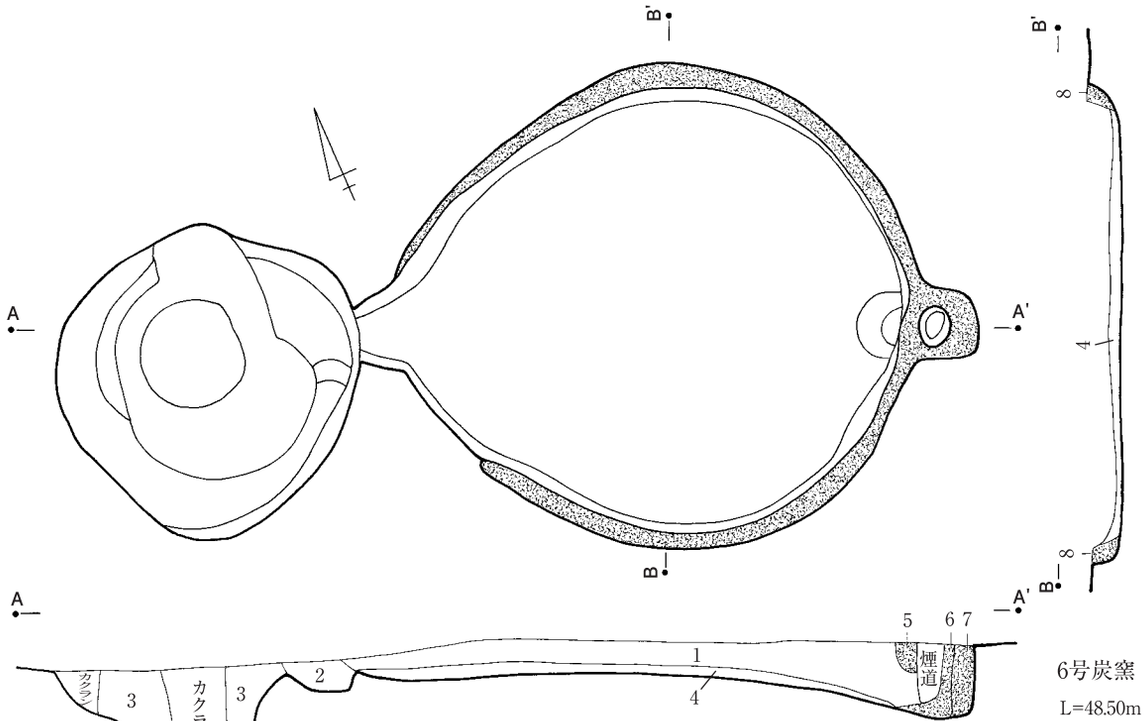
第５図　沢遺跡炭窯実測図(2)



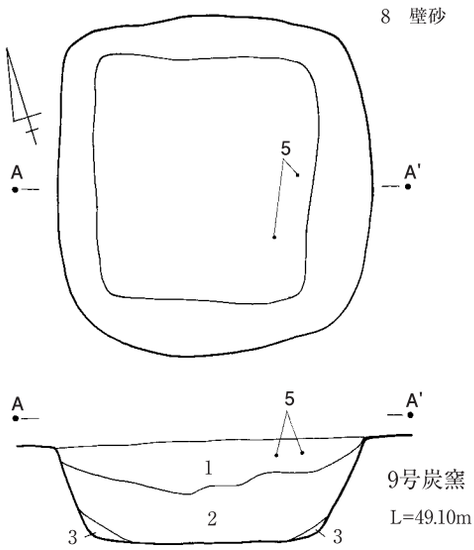
第６図　沢遺跡炭窯実測図(3)

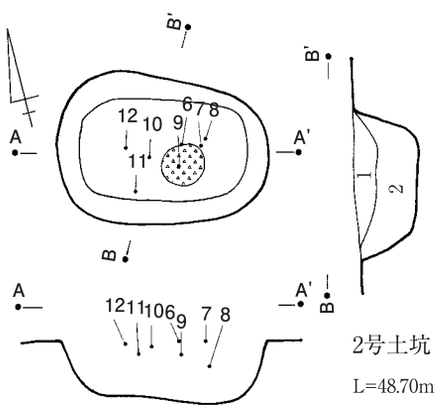
２号土坑からは多くの遺物とともに，ハマグリ・アサリ・タニシで構成される貝層ブロックが検出された。鹹水性のハマグリ・アサリは都川河口付近で採取されたものと考えられるが，淡水性のタニシは都川もしくは鹿島川に面した水田から採取されたものと考えられる。ハマグリの殻長は約2.5～5.4㎝の間で平均値は約3.9㎝，アサリの殻長は約2.5～3.9㎝の間で平均値は約3.0～3.1㎝であり，サイズが比較的大きく，2.5㎝未満は採取されていないことから，採取時において何らかの制約があったと考えられる。

３号～８号炭窯は１号道路跡に沿う形で並んでおり，谷筋から上がってくる道沿いに炭窯が並んで



1　2.5YR　4/8　赤褐　焼けた山砂，レンガ状，天井崩落土
2　7.5YR　2/1　黒　　炭を主とし，しまり良い
3　7.5YR　3/3　黒褐　窯壁ブロック，炭を少し含む
4　黒色の床
5　天井
6　スラグ状に焼けた砂
7　黄白色山砂
8　壁砂



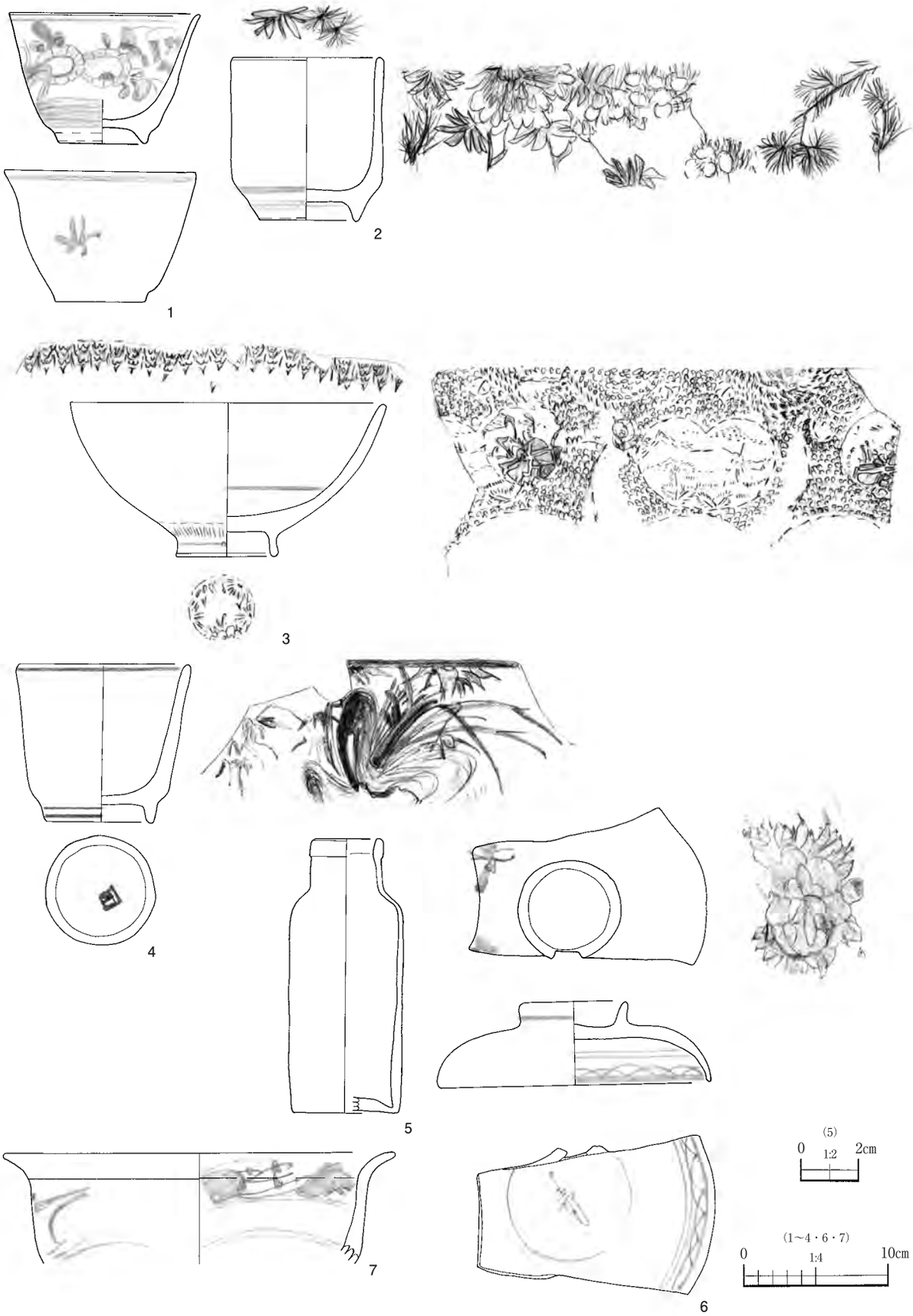


1　7.5YR　3/3　暗褐　貝を少し含む，しまり悪い
2　7.5YR　3/3　暗褐　ロームブロックを少し含む，しまり悪い

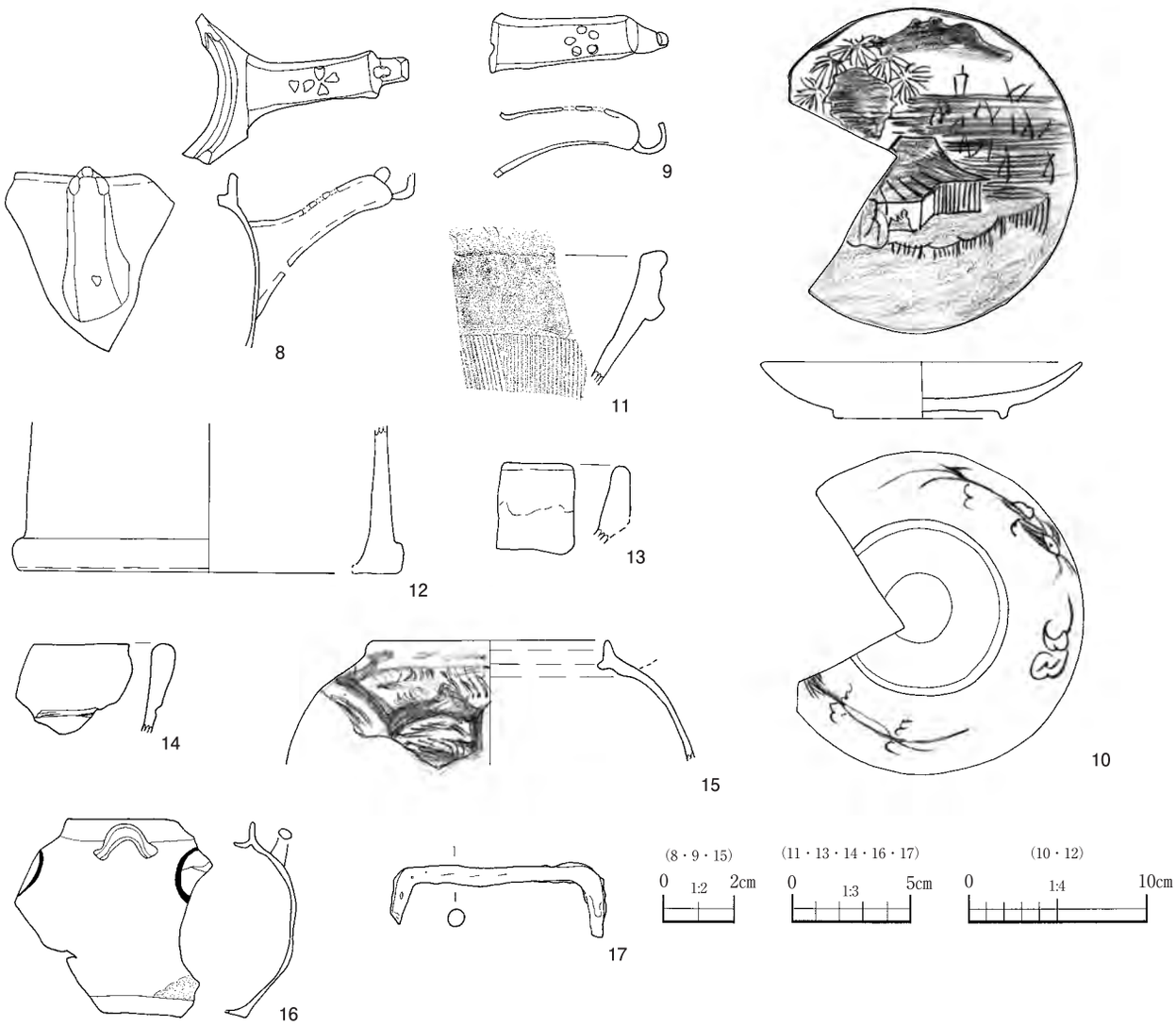
1　7.5YR　3/3　暗褐　ロームブロックを多く，炭を少し含む，人為埋土，しまり良
2　7.5YR　3/3　暗褐　炭をわずか含む，しまり悪い
3　7.5YR　3/2　黒褐　炭を多く，焼土を少し含む

0　1:40　1m

第７図　沢遺跡炭窯・土坑実測図



第８図　沢遺跡近世以降遺物実測図(1)



第９図　沢遺跡近世以降遺物実測図(2)

第１表　沢遺跡近世以降遺物観察表

図版番号	注記番号	材質	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	遺存度	色調	備考
1	１号道路跡－１	磁器	お猪口	6.6	3.1	4.6	完形	7.5YR8/1　灰白	
2	１号道路跡－２	磁器	お猪口	5.2	3.4	5.7	完形	7.5YR8/1　灰白	
3	１号道路跡	磁器	碗	10.8	13.4	5.3	1/2	7.5YR8/1　灰白	
4	９号炭窯	磁器	お猪口	(3.0)	3.6	5.5	2/3	7.5YR8/1　灰白	
5	９号炭窯	ガラス	瓶	4.6	7.1	19.0	1/2	青	
6	２号土坑－18	磁器	蓋	(9.6)	－	2.9	1/3	10G7/1　明緑灰	
7	２号土坑－24	磁器	鉢	(13.6)	(13.6)	(3.9)	1/8	N　8/　灰白	
8	２号土坑－26	陶器	急須	－	－	－	不明	10YR3/4　暗褐	
9	２号土坑－23	陶器	急須	－	－	－	不明	10YR3/4　暗褐	14と同一個体
10	２号土坑－22	磁器	皿	18.0	9.7	3.1	3/4	N　8/　灰白	
11	２号土坑－9	陶器	擂り鉢	－	－	－	不明	7.5YR4/6　褐	
12	２号土坑－6	瓦器	不明	－	(21.6)	－	不明	7.5YR3/2　黒褐	
13	4E	瓦器	鍋	－	－	－	不明	7.5YR7/2　明褐灰	
14	１号道路跡－３	瓦器	鍋	－	－	－	不明	7.5YR2/1　黒	雲母含む
15	９Ｇ－ｂ	磁器	壺	(6.8)	－	(3.5)	不明	7.5YR8/1　灰白	
16	１号炭窯	陶器	壺	(5.6)	(5.6)	8.3	1/5	5Y8/4　淡黄	

図版番号	注記番号	材質	器種	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	遺存度	色調	備考
17	６号炭窯	鉄製品	不明	9.3	3.3	1.0	完形	錆	重量　27.3ｇ

第２表　沢遺跡遺構観察表

遺構名	グリッド	平面形	規模（m） 長軸×短軸×深さ	主軸方位	出土遺物	備考
１号土坑	駐車場トレンチ	（楕円形）	（－）×0.60×1.00	－	なし	
２号土坑	9G－b	楕円形	1.15×0.78×0.33	N－65°－W	磁器・陶器・石	貝層（ハマグリ・アサリ・タニシ）
１号炭窯	2F－c	隅丸方形	2.35×2.35×0.82	N－28°－E	陶器・炭化材	
２号炭窯	7E－b	隅丸長方形	1.96×1.42×0.62	N－4°－W	鉄製品	
３号炭窯	7F－d	隅丸長方形	1.80×1.24×0.36	N－32°－E	なし	４炭に切られる
４号炭窯	7F－d	無花果形	3.40×2.44×0.36	N－79°－E	炭化材	３炭と重複
５号炭窯	8F－b	無花果形	4.95×2.45×0.55	N－107°－E	なし	
６号炭窯	8F－c, d	無花果形	4.92×2.56×0.57	N－111°－E	鉄製品	
７号炭窯	9F－a	無花果形	(3.49)×2.68×0.45	N－110°－E	なし	８炭と重複
８号炭窯	9F－a	隅丸方形	2.42×1.78×0.56	N－93°－E	なし	７炭と重複
９号炭窯	8H－a	隅丸方形	1.78×1.68×0.56	N－20°－E	磁器・ガラス瓶	

遺構名	グリッド	断面形	規模（m） 総延長×最大幅×深さ	主軸方位	出土遺物	備　　考
１号道路跡	8H・9G・9H 10F・10G	Ｕ字形	35.50×2.80×0.66	－	磁器・瓦器	波板状凹凸　硬化面２面

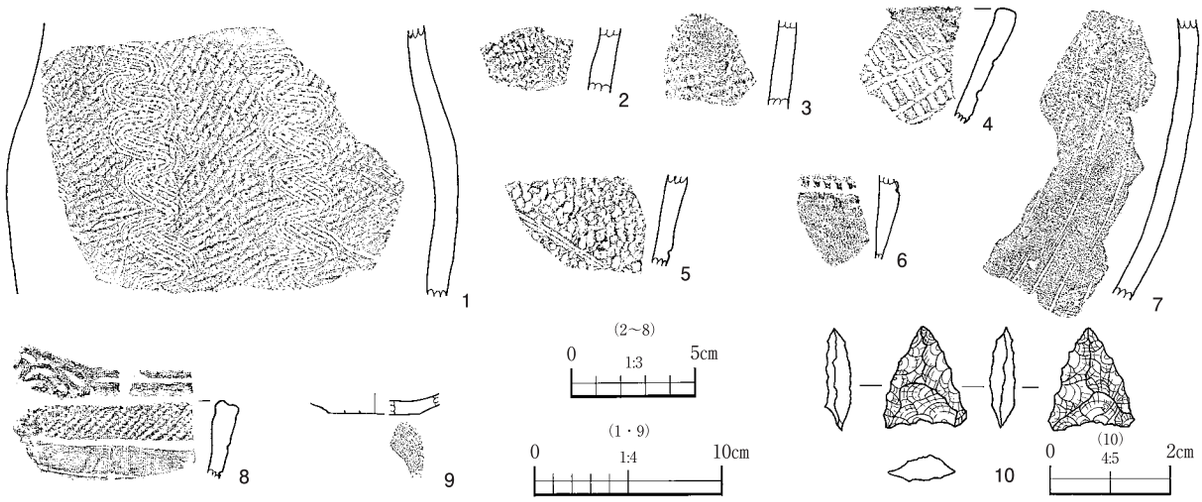
いたと考えられる。遺跡周辺は現在でも雑木林であり，当時，炭焼が盛んであったことが窺える。炭窯は形態的には平面形が隅丸方形・隅丸長方形のものと無花果形のものの２種類がある。無花果形のものは入口部を有し，砂質粘土により壁が頑丈に作られている。隅丸長方形のもの（３号炭窯）を無花果形のもの（４号炭窯）の入口部（掻き出し口）が壊している場合と，無花果形のもの（７号炭窯）の入口部（掻き出し口）を隅丸方形のもの（８号炭窯）が壊している場合があり，両者の違いを時間差に求めることはできない。

２号土坑と炭窯を中心に近世以降の遺物が出土している。陶器や磁器・瓦器・ガラス製品・鉄製品などである。これらの遺物は炭窯の設営・操業に伴い使用・廃棄されたものであると考えられる。

遺構外からは近世以降の遺物の他に，縄文時代中・後・晩期，平安時代の遺物が出土している。堀之内１式の深鉢（1）はⅡb層中より出土しており，Ⅱb層が縄文時代後期の包含層であることが窺える。縄文中期または縄文中～後期の深鉢（2・3）が出土しているが，型式認定はできなかった。加曽利Ｂ式の深鉢（4・5）が出土しているが，沢遺跡周辺には加曽利Ｂ式土器が単独で出土する遺跡が複数存在する。他に晩期安行式の深鉢（7），安行３a式の浅鉢（8）が出土しているが，このような遺跡で晩期土器片が出土することは珍しく，沢遺跡周辺に後・晩期遺跡が集中していることと関連があると考えられる。９は土師器の坏の底部で，底部回転糸切りによる切り離しがなされている。10は縄文時代の黒曜石製石鏃で，透明度が低く産地は神津島か高原山であると推測され得る。

＜参考文献＞

千葉県教育委員会　1999　『千葉県埋蔵文化財分布地図(3)－千葉市・市原市・長生地区（改訂版）－』
㈶千葉県史料研究財団　2000　『千葉県の歴史　資料編　考古1（旧石器・縄文時代）』
㈶千葉県文化財センター　1999　『千葉県文化財センター研究紀要19』



第10図　沢遺跡遺構外出土遺物実測図

第３表　沢遺跡遺構外出土遺物観察表

番号	注記番号	時期・型式	器種	部位	施文手法・計測値等	備　　考
1	3E－a－1	堀之内１式	深鉢	胴部	地文縄文L→櫛歯条線状工具による蛇行沈線	胴部最大径（推定）14.3㎝ 外面炭化物付着
2	3E－a	縄文中期	深鉢	胴部	縄文RL	
3	3E－a	縄文中～後期	深鉢	胴部	縄文LR	
4	D－1－4	加曽利B式	深鉢	口縁部	斜格子目文　微かに内面沈線	
5	6T	加曽利B式	深鉢	胴部	地文縄文LR→条線	
6	D－1－1	加曽利B式	深鉢	胴部	沈線区画内に刻目列	
7	4E－d	縄文晩期前半	深鉢	胴部	条線	
8	4F	安行3a式	浅鉢	口縁部	沈線区画→縄文LR→磨消・ミガキ小突起 口唇部上端に１条の沈線	外面炭化物付着
9	D－1－2	平安？	坏	底部	底部回転糸切り	土師器

番号	注記番号	時　　期	種別	石材	長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重量(g)	備　　考
10	3E－a	縄文	石鏃	黒曜石	1.7	1.4	0.4	0.6	

第４表　沢遺跡貝層サンプル観察表

２号土坑	ハマグリ		アサリ	
殻長（㎝）	右	左	右	左
2.5～2.9	2	1	5	7
3.0～3.4	11	10	11	9
3.5～3.9	32	31	1	0
4.0～4.4	15	19	－	－
4.5～4.9	7	3	－	－
5.0～5.4	2	2	－	－
計測不能	19	25	9	10
合　　計	88	91	26	26
平均値（㎝）	3.895	3.894	3.132	3.031

２号土坑	個体数	割合％
ハマグリ	91	56.9
ア サ リ	26	16.2
タ ニ シ	43	26.9
合　　計	160	100.0

第２章　下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡

１　調査に至る経緯

平成12年１月20日，小食土地区土地基盤整備事業推進協議会から農業基盤整備事業の実施を計画している千葉市緑区小食土町地内の250,000㎡について，「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて（照会）」の文書が千葉市教育委員会教育長あてに提出された。これに対し,千葉市教育委員会生涯学習部文化課では現地踏査及び試掘調査を実施し，平成12年12月25日付けで４ヶ所について埋蔵文化財が所在する旨を回答した。

照会者及び千葉市農政部農業環境整備課，千葉県東金土地改良事務所と協議を重ねた結果，計画の変更は困難であるため事前に発掘調査を実施し，記録保存の措置を講じることとなった。発掘調査は財団法人千葉市教育振興財団に委託し，平成14年10月１日から平成15年３月27日まで実施した。（千葉市教育委員会生涯学習部文化課）

２　遺跡の位置と周辺の遺跡

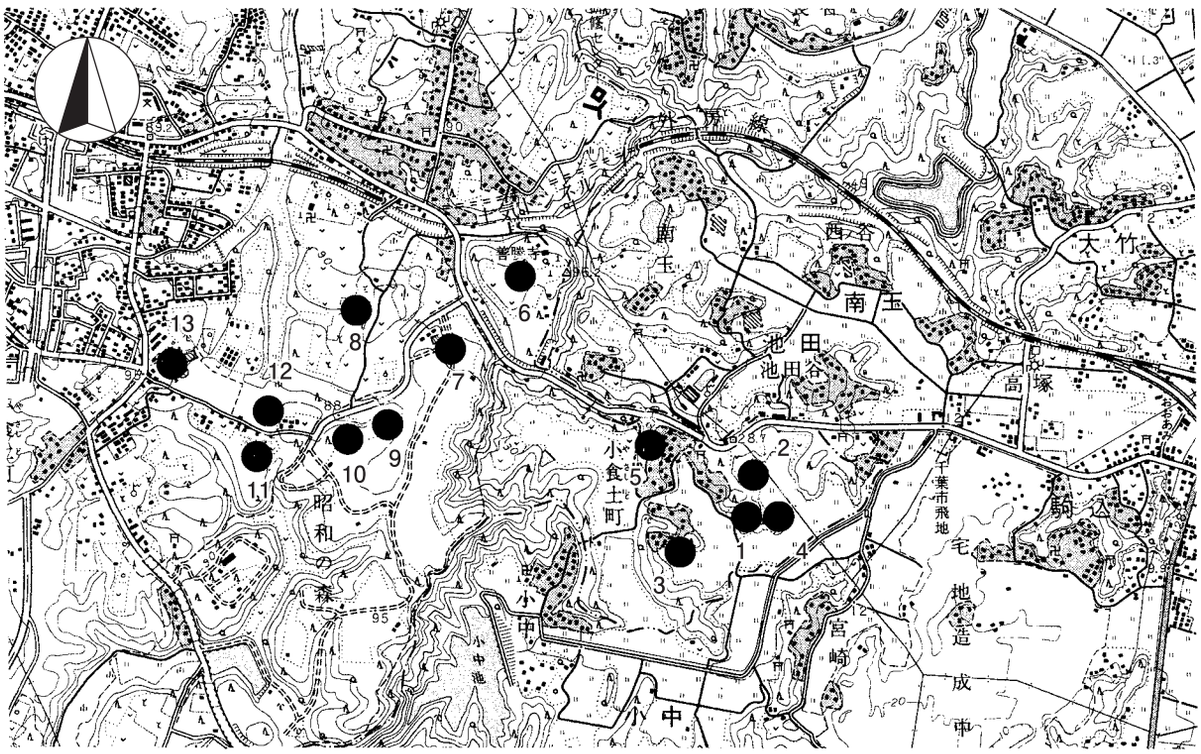
下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡は，千葉市の東部，太平洋に流れ込む南白亀川の支流である小中川上流域に所在する。周辺遺跡には，縄文時代の辰ヶ台遺跡，古墳時代の乙払込横穴，南谷横穴，奈良・平安時代の荻生道遺跡，小食土廃寺などが知られている。

３　概要

下ノ切遺跡は，標高14mを測る台地縁辺部及び埋没谷に位置し，今回の調査では，遺跡の北に位置する乙払込横穴に関連する遺構・遺物の検出が期待された。調査の結果，調査区の半分が埋没谷であり，遺構の検出はなく，古墳～平安時代土師器・須恵器，近世陶器の小片が少量出土したにすぎない。

乙払込遺跡は，標高16mを測る台地縁辺部及び埋没谷に位置する。乙払込横穴は，台地一つ隔てた南側に存在する。今回の調査区はほとんどが埋没谷であり，表層は砂質でもろく，谷頭部であるため水分に富み，崩壊が激しかったためほとんどの部分で基盤層まで掘削することができず，遺構は検出できなかった。しかし，基盤層まで掘削できた部分では奈良・平安時代の遺物を含む黒褐色土層が確認され，包含層の可能性がある。遺物については，古墳～平安時代土師器・須恵器，近世陶器の小片がわずかに出土したにすぎない。しかし，調査区外であるが北側の斜面には遺物が散布する部分があり，遺構の存在が予想される。

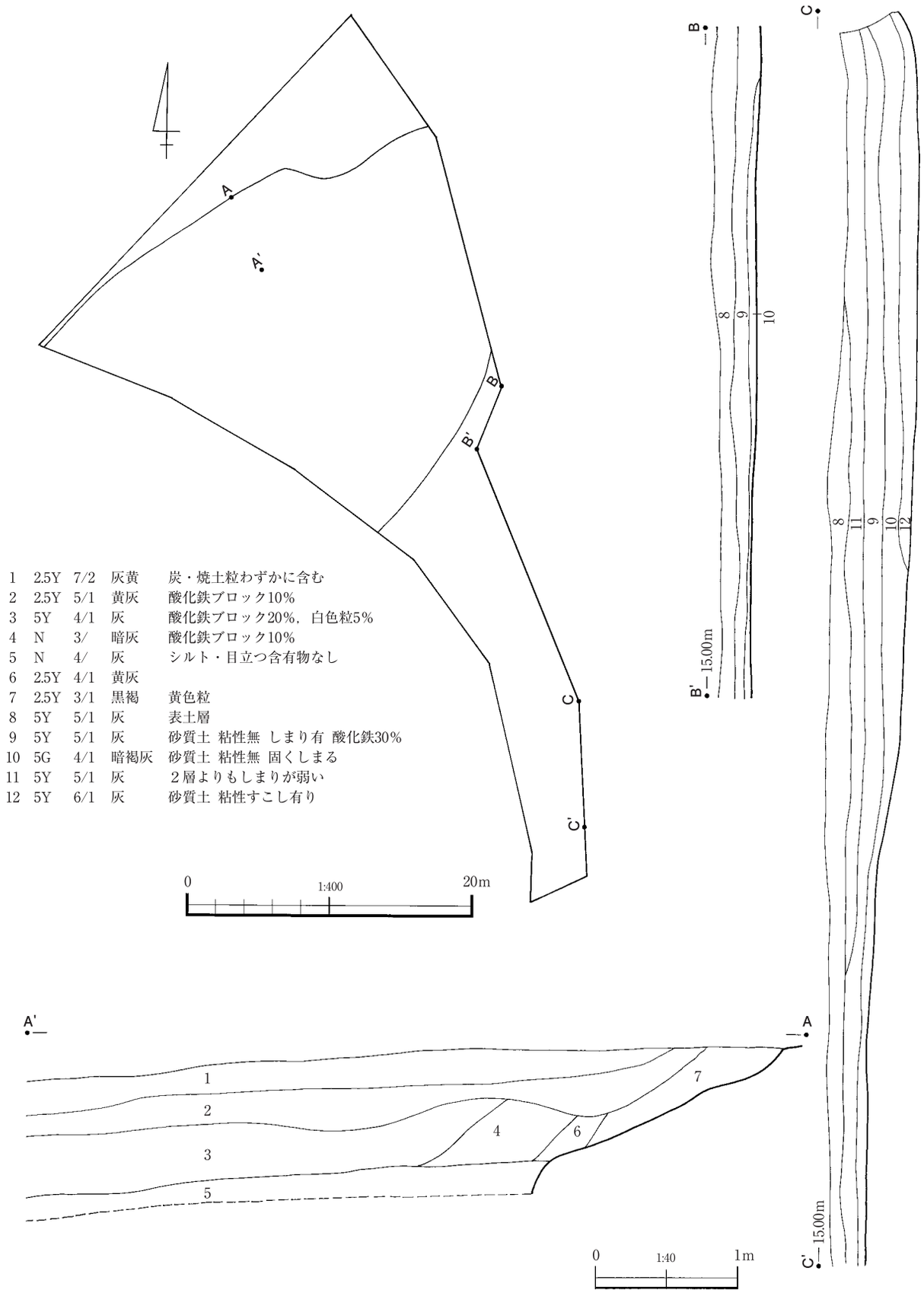
長谷下遺跡は，標高14mを測る台地縁辺部及び埋没谷に位置する。調査の結果，土坑３基，溝状遺構２条が検出された。１号土坑からは，凝灰岩製砥石が出土している。２号土坑は，杭と考えられる木が出土した。土留めに使用されたものであろうか。遺構の時期は，確証はないが遺構覆土と埋没谷の土層との比較から，おおむね奈良・平安時代と考えられる。埋没谷は，確認できた部分では，植物遺体を主体とする層が２層検出され，上位の層上には泥炭層が検出された。少ない遺構・遺物であるが，遅くとも９世紀代には，周辺で集落が営まれていたと考えられる。今まで調査事例の少ない当地



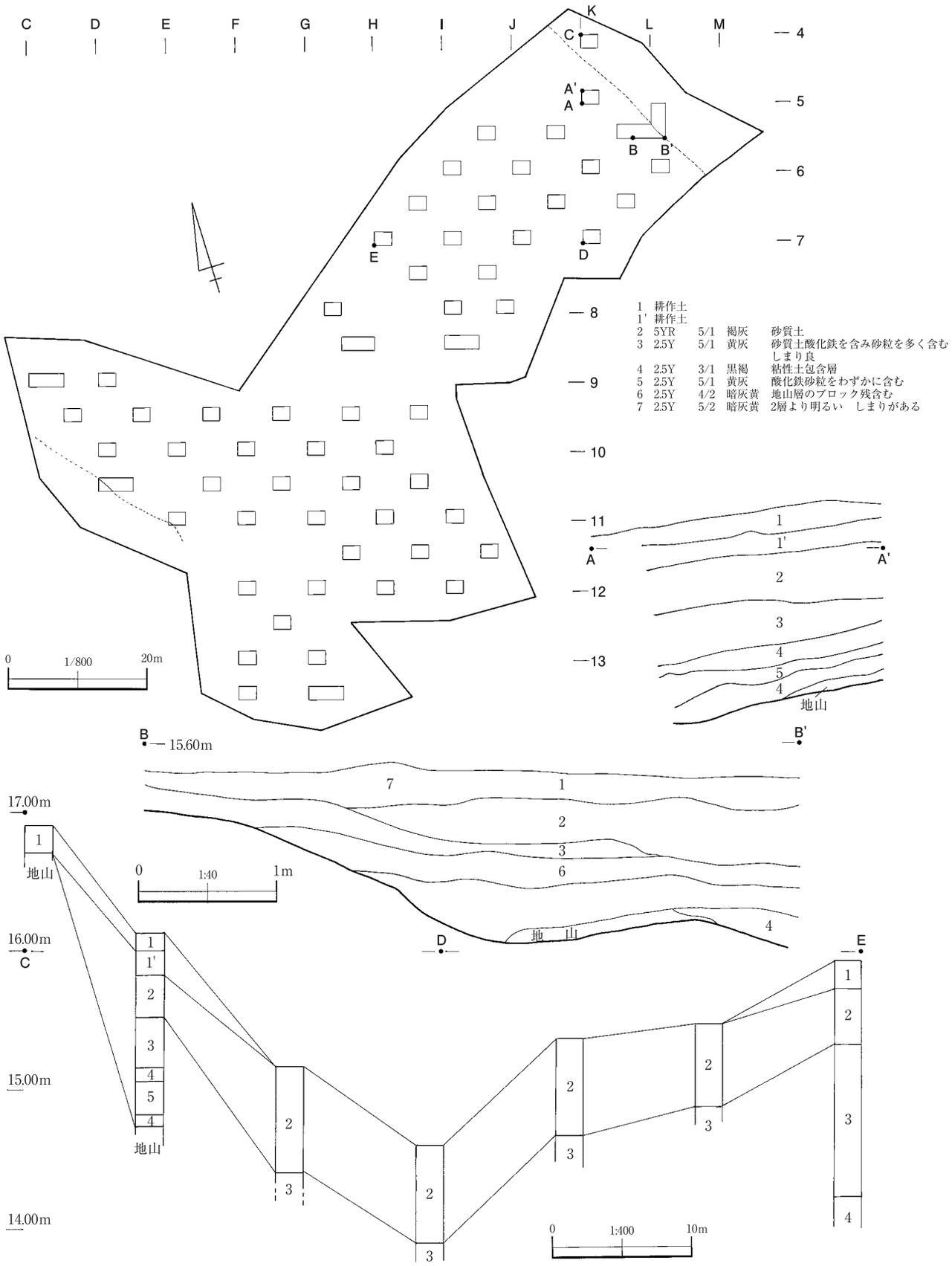
1．下ノ切遺跡　2．乙払込遺跡　3．長谷下遺跡　4．乙払込横穴群　5．南谷横穴　6．土気中台遺跡
7．東城楽台遺跡　8．黒ハギ遺跡　9．小食土廃寺　10．荻生道遺跡　11．上塚遺跡　12．長塚古墳群
13．舟塚古墳

第11図　下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡と周辺の遺跡（1/25,000）

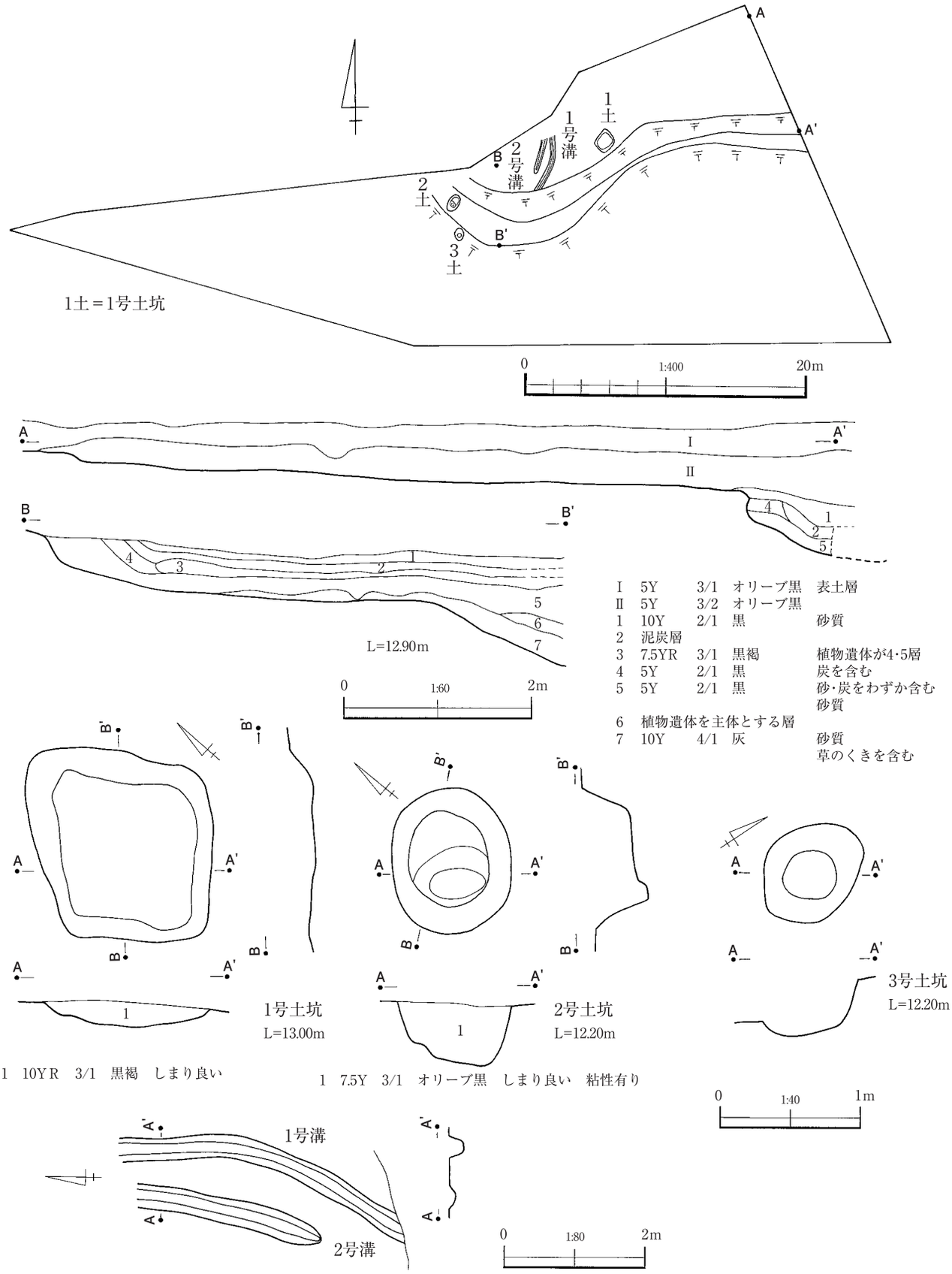
第12図　下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡の位置（1/4,000）



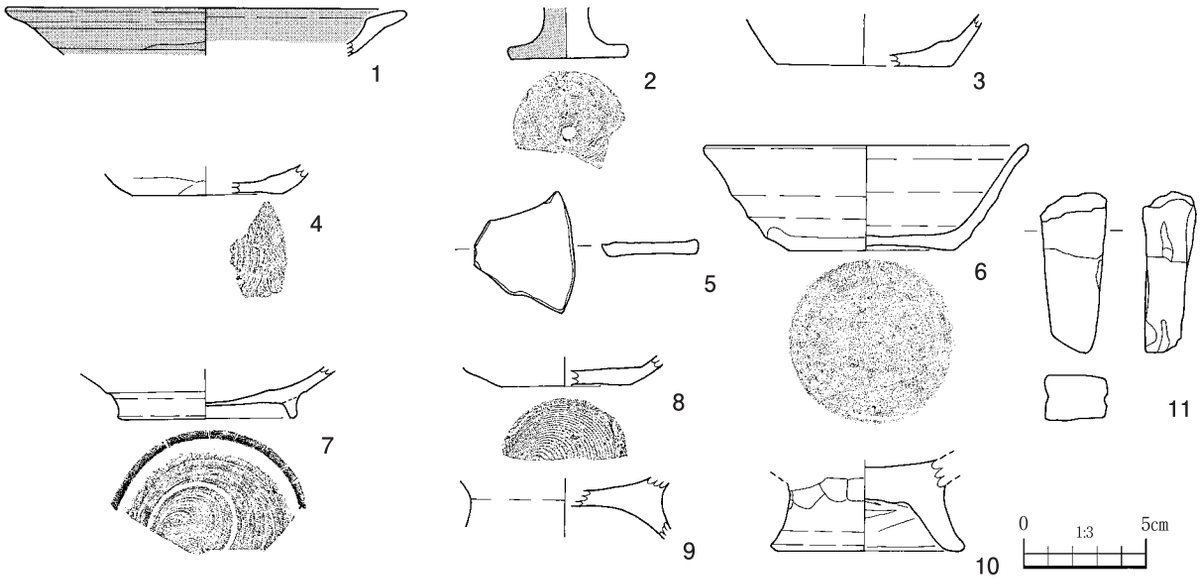
第13図　下ノ切遺跡全体図



第14図　乙払込遺跡全体図



第15図　長谷下遺跡全体図及び土坑・溝実測図



第16図　下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡出土遺物実測図

第５表　下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡出土遺物観察表

遺跡	番号	注記番号	器種・産地	法量（㎝）	遺存度	成　　形	色調・胎土	備　　考
下ノ切	1	東	近世陶器 皿 志野	口径（15.7） 底径　－ 器高（ 1.8）	口縁部 1/2		5YR8/2　灰白	
下ノ切	2	西砂層	近世陶器 台付ひょうそく 瀬戸	口径　－ 底径　4.5 器高（ 2.0）	脚部 3/4	底部回転糸切り	2.5YR2/2　極赤褐 （外面） 5GY8/1　灰白（内面）	底部穿孔
乙払込	3	表採	土師器 坏	口径　－ 底径（ 7.0） 器高（ 2.1）	底部 1/8		2.5YR5/6　明赤褐 砂粒多	磨耗激しい
乙払込	4	4K－c	土師器 坏	口径　－ 底径（ 6.0） 器高（ 2.1）	底部 1/6	底部回転糸切り	5YR6/6　橙 赤色スコリア多	
乙払込	5	6I－c	近世陶器 皿 瀬戸	口径　－ 底径　－ 器高　－	底部 1/6	底部回転糸切り	2.5YR8/3　淡黄	
長谷下	6	泥炭層－１	土師器 坏	口径　16.7 底径　6.5 器高　4.1	完形	底部回転糸切り後 ヘラ削り	5YR6/6　橙 砂粒多	9世紀代
長谷下	7	泥炭下黒褐	灰釉陶器 碗 東海	口径　－ 底径（ 6.5） 器高（ 2.0）	底部 2/3	底部回転糸切り後 高台を貼付	7.5YR8/1　灰白 緻密	折戸53号窯式
長谷下	8	泥炭上黒褐	中世陶器 皿 瀬戸	口径　－ 底径（ 5.0） 器高（ 1.2）	底部 1/2	底部回転糸切り	7.5YR8/1　灰白	
長谷下	9	ピート層下 黒褐	土師器 台付甕？	口径　－ 底径　6.8 器高（ 3.6）	脚部 完形		7.5YR7/3　にぶい橙 赤色スコリア多	
長谷下	10	表採	土師器 台付甕	口径　－ 底径（ 7.6） 器高（ 1.4）	脚部 1/2		2.5YR6/6　橙 赤色スコリア多	磨耗激しい

遺跡	番号	注記番号	石材・器種	法量（㎝）	重量（g）	備　　考
長谷下	11	１号土坑－１	凝灰岩製砥石	長さ　6.4 幅　2.6 厚さ　1.8	43.4	研磨面4面

域での貴重な調査例となった。遺物については，古墳～平安時代土師器，平安時代灰釉陶器（東海産・９世紀後半～10世紀代），中世陶器，砥石が出土した。

第３章　居寒台遺跡

１　調査に至る経緯

この調査報告は，千葉市道路部街路建設課による都市計画道路幕張町弁天町線（花園地区）街路整備事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査の一部について，調査成果をまとめたものである。

この埋蔵文化財発掘調査は大半を平成13年11月から12月に実施したが，この際調査できなかった現道部分50㎡について現道の除去工事を行う際に追加調査を行うこととした。その後，平成15年３月10日に除去工事を実施することに決定し，同日から３月14日まで財団法人千葉市教育振興財団が千葉市教育委員会の委託を受けて調査を行った。

平成13年度調査の成果については平成15年３月31日付けで調査報告書を刊行している（財団法人千葉市教育振興財団　2003 『－千葉市－都町山王遺跡　居寒台遺跡』。追加調査の成果はこの中に含めることができなかったため，ここで報告する。（千葉市教育委員会生涯学習部文化課）

２　遺跡の位置と周辺の遺跡

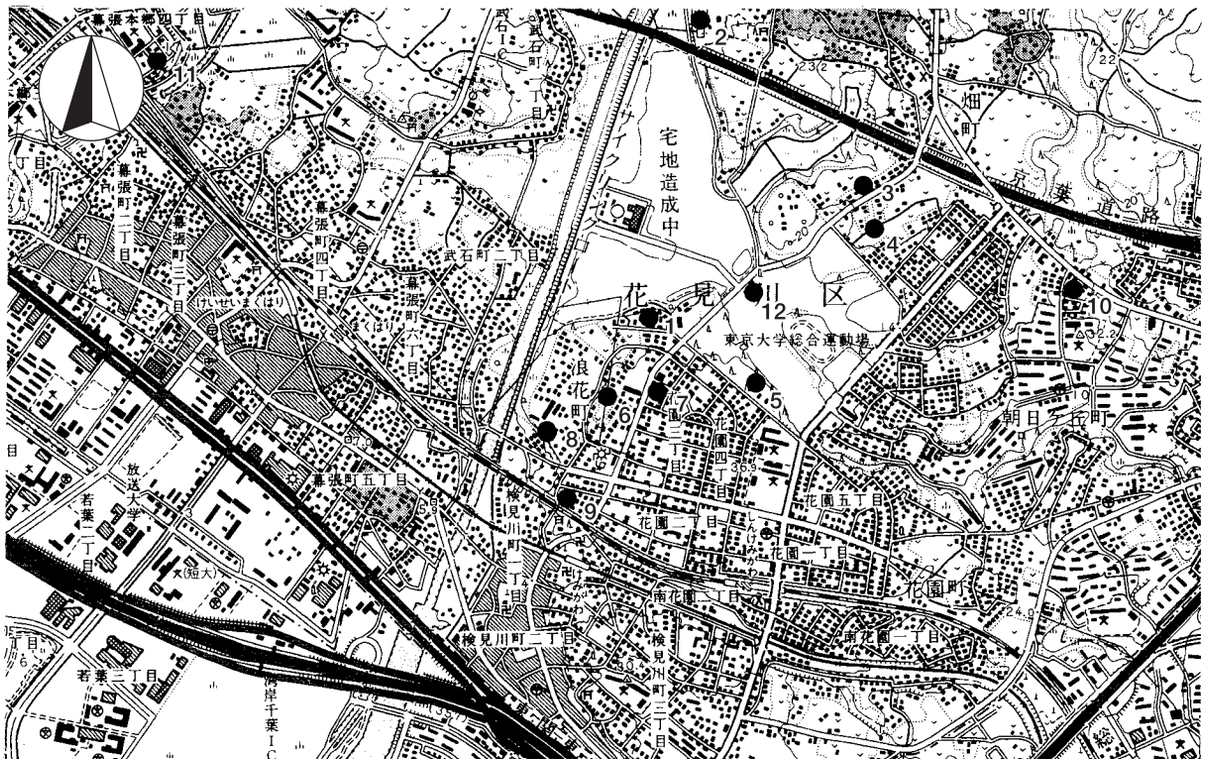
居寒台遺跡は，千葉市の北西部，JR総武線新検見川駅から北北西に約800m，印旛沼の東京湾への放水路として開削された花見川の下流域，花見川本谷と鶴牧支谷に挟まれ北西に張り出す台地上に所在する。標高は18 ～ 20mであり，旧水田面からの比高差は14 ～ 16mである。

本遺跡の周辺には多くの遺跡が所在しており，過去に調査歴のある遺跡も少なくない。今回検出された古墳時代後期の竪穴住居跡と同時期の遺構も，複数の遺跡で検出されている。直道遺跡では古墳～平安時代の竪穴住居跡22軒，掘立柱建物跡20棟が検出された。瓜堀込遺跡では古墳～平安時代の竪穴住居跡が8軒検出された。鶴牧支谷北側の台地上に位置する上鶴牧遺跡では，古墳時代後期の竪穴住居跡2軒が検出された。花見川本谷を隔てた北西約２㎞先には，古墳時代後期を主体とする300軒以上の竪穴住居跡が検出された上ノ台遺跡が所在する。

上鶴牧遺跡・大久保貝塚・瓜堀込遺跡・上ノ台遺跡等，周辺には古墳～平安時代の貝層が検出されている遺跡が多く，貝類の採取が盛んであったことが窺える。貝類は鹹水性のハマグリ・アサリ・シオフキ・カガミガイ・イボキサゴ・ウミニナの他，汽水性のヤマトシジミが出土している。また，居寒台遺跡の平成13年度調査区からは縄文時代晩期の姥山Ⅱ式・前浦式土器が出土しており，東京大学総合運動場敷地内に所在する落合遺跡との関連性が考えられる。

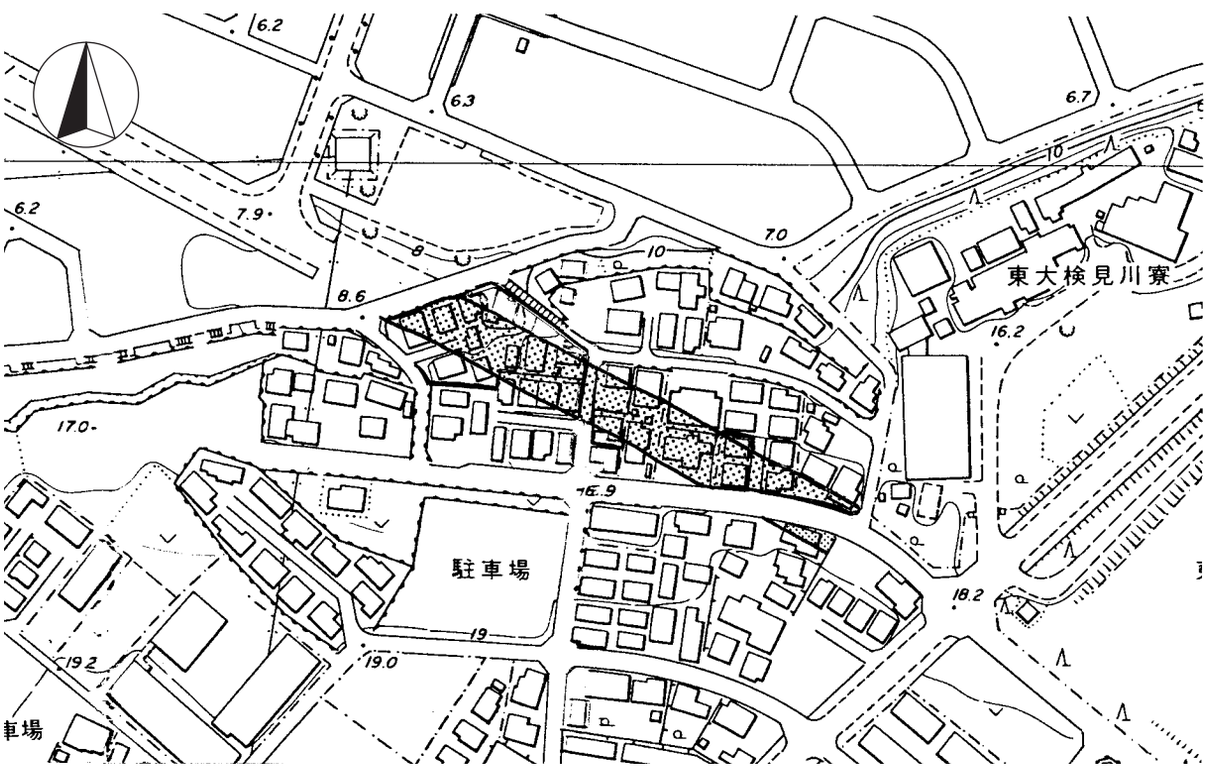
３　概要

今までに８地点について発掘調査が実施され，一部は確認調査のみではあるが，旧石器時代石器集中区１ケ所，古墳時代～奈良・平安時代住居跡87軒，掘立柱建物跡22棟などが検出されている。今回の調査区は，平成13年度に発掘調査が実施できなかった道路下部分である。調査の結果，平成13年度に調査された住居跡のカマドが検出された。

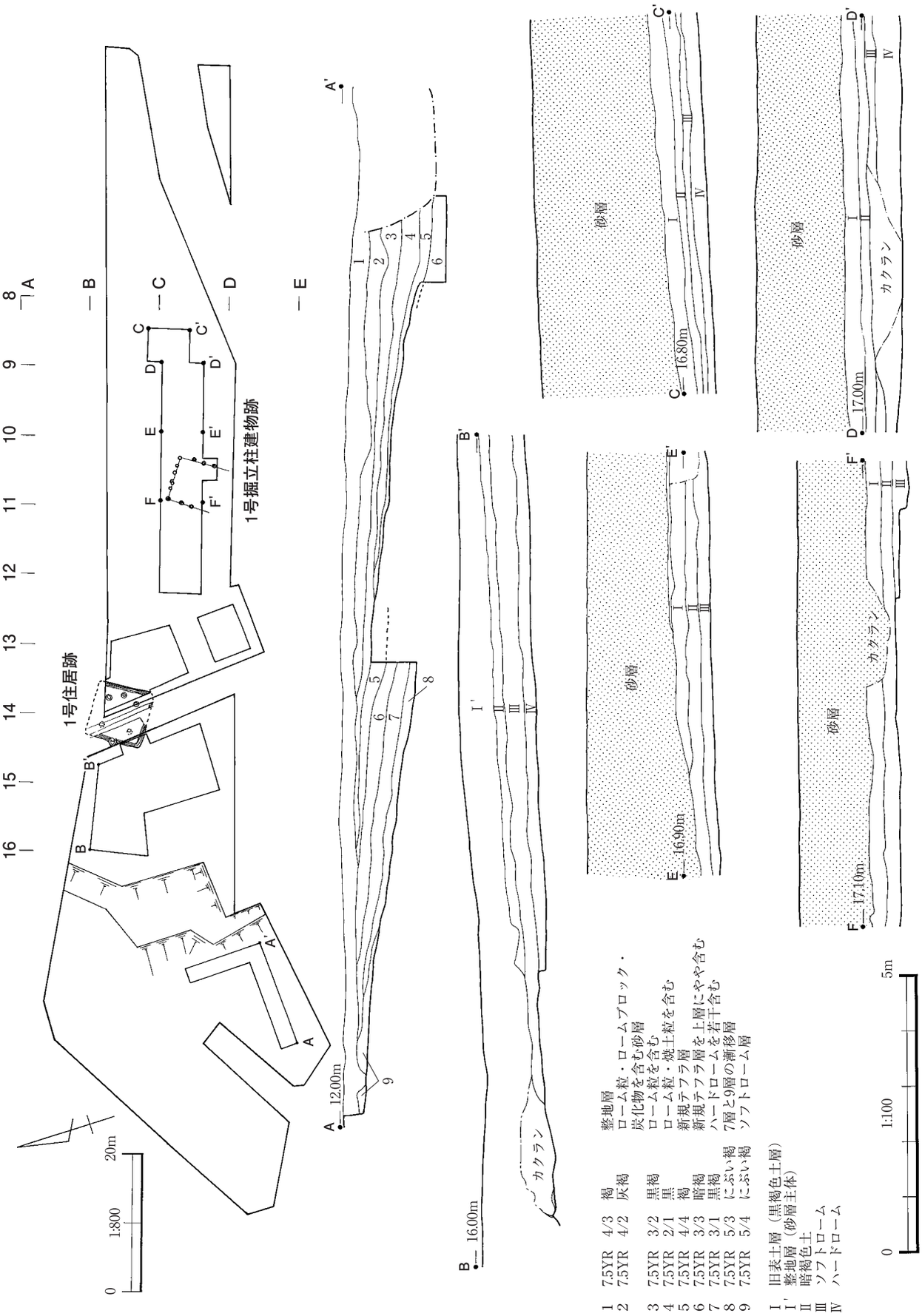


1．居寒台遺跡　2．宮脇遺跡　3．御林遺跡　4．上鶴牧遺跡　5．玄蕃所遺跡　6．直道遺跡
7．横塚遺跡　8．大久保貝塚　9．瓜堀込遺跡（うりほっこめ）　10．箕輪（みのわ）遺跡　11．城山城跡　12．落合遺跡

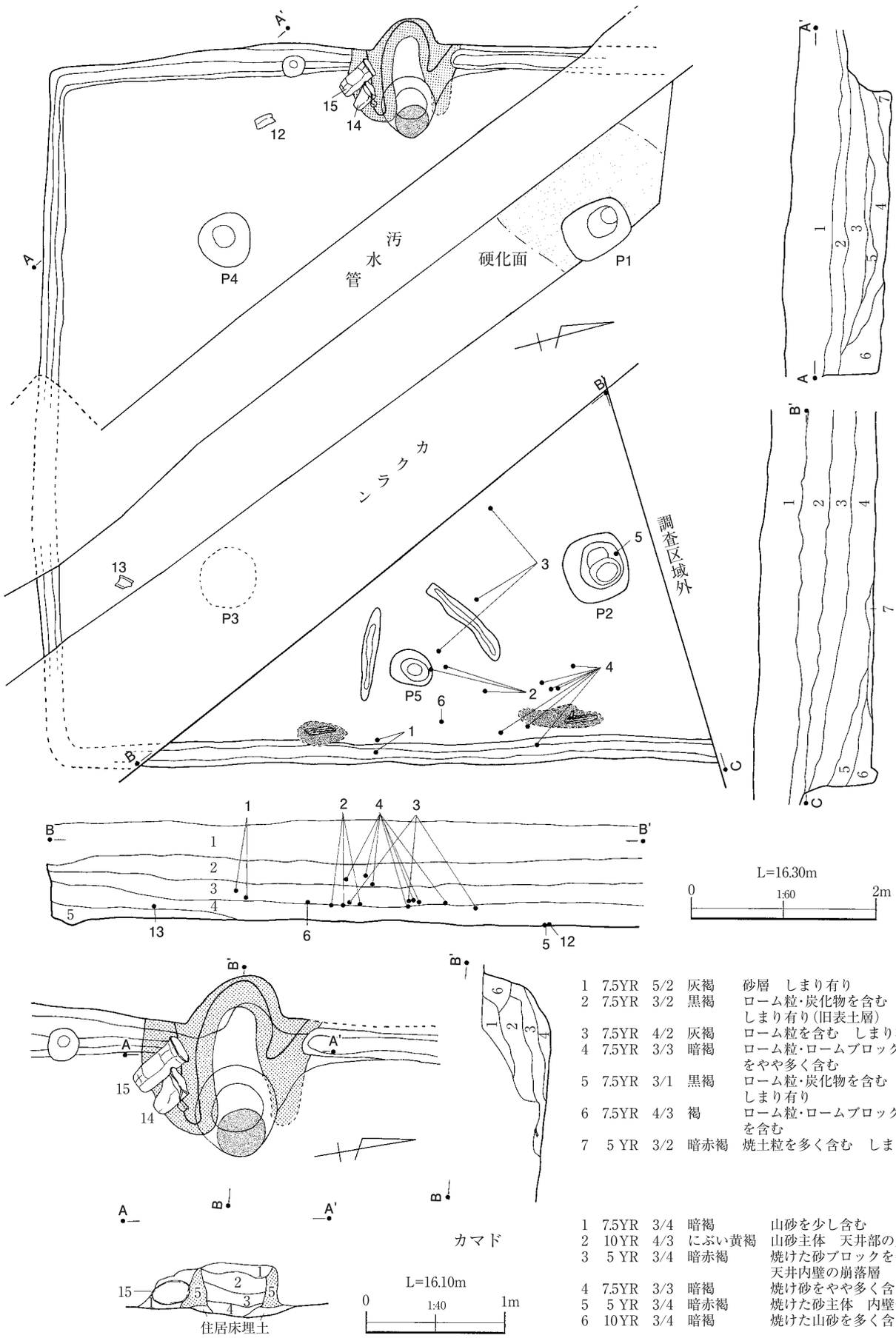
第17図　居寒台遺跡の位置と周辺の遺跡（1/25,000）



第18図　居寒台遺跡地形図（1/2,500）



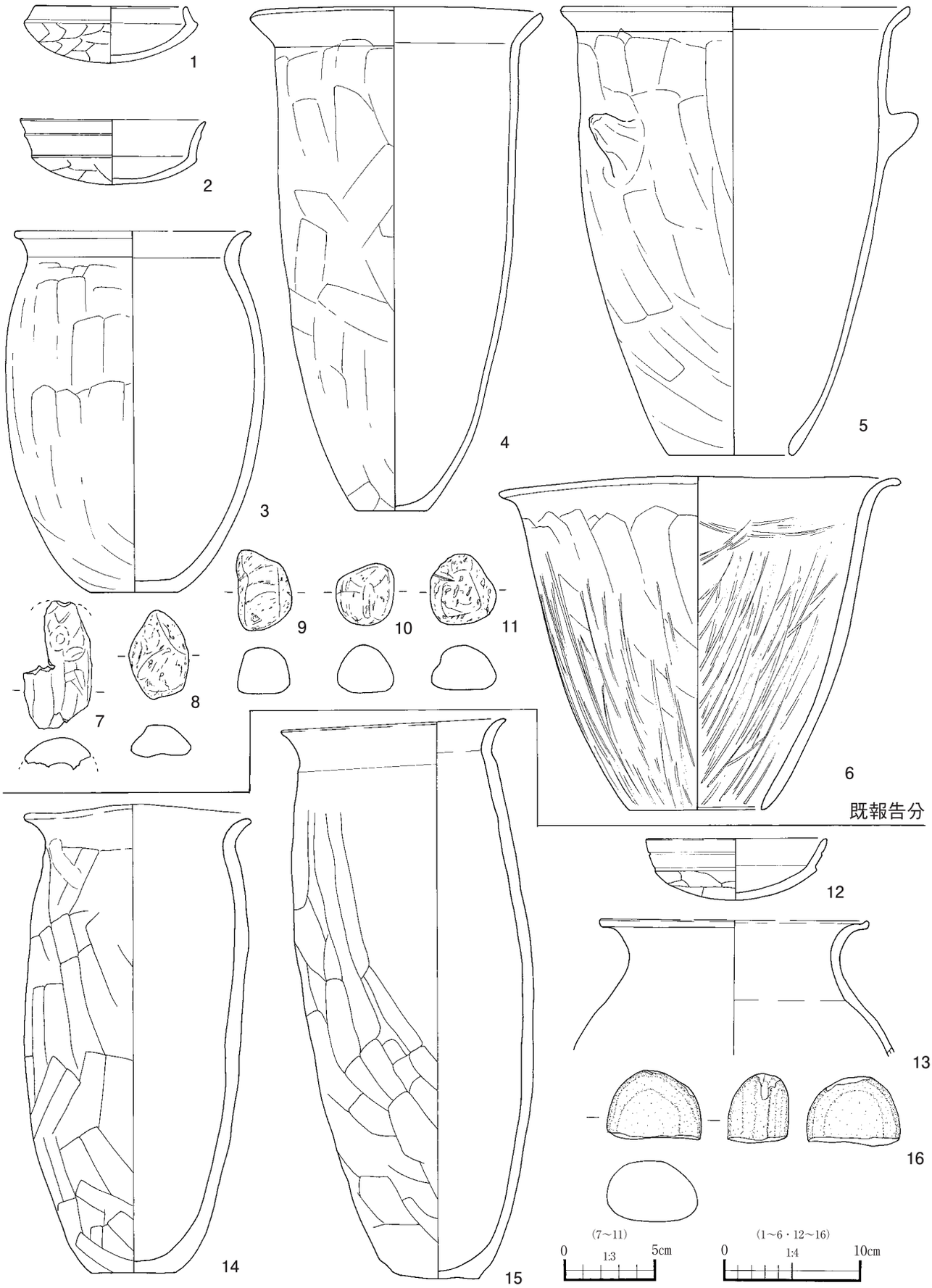
第19図　居寒台遺跡全体図



1	7.5YR	5/2	灰褐	砂層　しまり有り
2	7.5YR	3/2	黒褐	ローム粒・炭化物を含む しまり有り(旧表土層)
3	7.5YR	4/2	灰褐	ローム粒を含む　しまり有り
4	7.5YR	3/3	暗褐	ローム粒・ロームブロック(10㎜大) をやや多く含む
5	7.5YR	3/1	黒褐	ローム粒・炭化物を含む しまり有り
6	7.5YR	4/3	褐	ローム粒・ロームブロック(10㎜大) を含む
7	5 YR	3/2	暗赤褐	焼土粒を多く含む　しまり有り

1	7.5YR	3/4	暗褐	山砂を少し含む
2	10YR	4/3	にぶい黄褐	山砂主体　天井部の崩落層
3	5 YR	3/4	暗赤褐	焼けた砂ブロックを多く含む 天井内壁の崩落層
4	7.5YR	3/3	暗褐	焼け砂をやや多く含む
5	5 YR	3/4	暗赤褐	焼けた砂主体　内壁部分
6	10YR	3/4	暗褐	焼けた山砂を多く含む

第20図　居寒台遺跡１号住居跡実測図



第21図　居寒台遺跡１号住居跡出土遺物実測図

第６表　居寒台遺跡１号住居跡出土土器観察表

番号	器種	法量（㎝）	遺存度	器形の特徴	調整・成形の特徴	胎土・色調・焼成	備考
1	土師器坏	口径　11.2 底径　－ 器高　4.1	完形	口縁部内傾する	口縁部・内面なで 底部ヘラ削り	粗め 5YR3/1　黒褐 良好	H14報告済
2	土師器坏	口径　13.6 底径　－ 器高　4.8	90%	口縁部段をもち， 緩く外反する	口縁部・内面なで 底部ヘラ削り	細かい　赤色粒子多 5YR6/6　橙 良好	H14報告済 有段口縁 北関東系
3	土師器甕	口径（17.5） 底径　6.6 器高　26.6	60%	口縁部短く外反する	口縁部なで 体部縦方向ヘラ削り	粗め 5YR5/3　にぶい赤褐 良好	H14報告済
4	土師器甕	口径　21.7 底径　5.2 器高　37.2	80%	口縁部外反する	口縁部なで 体部縦方向ヘラ削り後 斜方向ヘラ削り	粗め　赤色粒子 7.5YR6/3　にぶい褐 良好	H14報告済
5	土師器甑	口径　30.0 底径　9.2 器高　33.0	90%	口縁部短く外反する 把手一対	口縁部なで 体部縦方向ヘラ削り後 斜方向ヘラ削り	粗い　石英粒多 5YR4/3　にぶい赤褐 良好	H14報告済
6	土師器甑	口径　29.6 底径　9.8 器高　24.5	90%	口縁部短く外反する	口縁部なで 体部縦方向ヘラ削り後磨き 内面磨き	細かい 5YR5/4　にぶい赤褐 良好	H14報告済
12	土師器坏	口径　13.4 底径　－ 器高　4.6	80%	口縁部段をもち， 緩く外反する	口縁部・内面なで 底部ヘラ削り	細かい 5YR4/3　にぶい赤褐 良好	有段口縁 北関東系
13	土師器甕	口径（19.9） 底径　－ 器高（ 9.9）	20%	口縁部外反する 胴部張り出す	口縁部なで	粗め 10YR5/4　にぶい黄褐 良好	
14	土師器甕	口径　16.6 底径　6.3 器高　34.1	90%	口縁部外反する	口縁部なで 体部縦方向ヘラ削り後 斜方向ヘラ削り	粗め 5YR5/4　にぶい赤褐 良好	カマド脇 出土
15	土師器甕	口径　16.7 底径　6.3 器高　40.8	90%	口縁部外反する	口縁部なで 体部縦方向ヘラ削り後 斜方向ヘラ削り	粗め 5YR4/3　にぶい赤褐 良好	カマド脇 出土

第７表　居寒台遺跡１号住居跡出土土製品・石製品・石器観察表

番号	種別	材質	最大長(㎝)	最大幅(㎝)	最大厚(㎝)	重量(ｇ)	状態	備考
7	管状土錘	土製	7.1	3.8	1.8	31.9		H14報告済
8	軽石	軽石	4.7	3.2	1.8	6.0		H14報告済
9	軽石	軽石	4.5	3.0	2.6	11.8		H14報告済
10	軽石	軽石	3.3	3.2	2.7	9.4		H14報告済
11	軽石	軽石	3.9	3.7	3.0	9.9	被熱破損	H14報告済
16	敲石	砂岩	(5.0)	(7.0)	4.7	225.2	1/2破損	敲打痕

４　検出された遺構と遺物

平成13年度に調査された古墳時代後期の竪穴住居跡（１号住居跡）のカマドが検出された。形態は方形であり，推定規模は１辺7.7m，壁高は0.42 ～ 0.54mを測る。主軸方位はN－77°－Wを示す。床面はハードローム中にあり平坦である。

第21図２・12は埼玉県北部から群馬県平野部を中心に分布する有段口縁坏である。４・５は器厚が薄いのが特徴であり，同地域からもたらされたものと考えられる。14・15はカマド脇から出土している。管状土錘（7）や軽石（８～ 11）が出土しており，漁労が行われていた可能性が高い。軽石は10ｇ前後のものが多く，浮子として用いられていたと考えられる。

写　真　図　版

沢遺跡全景

基本層序（3E-a）

1 号道路跡

1 号土坑・1 号道路跡

1 号土坑・1 号道路跡

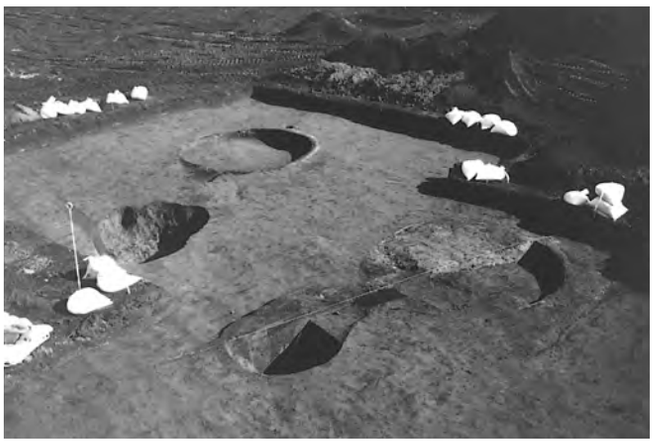
2 号土坑

1 号炭窯

2 号炭窯

3号炭窯

3号・4号炭窯



3号・4号・5号炭窯

6号炭窯

6号炭窯調査状況

7号・8号炭窯

8号炭窯

9号炭窯

下ノ切遺跡遠景

下ノ切遺跡近景

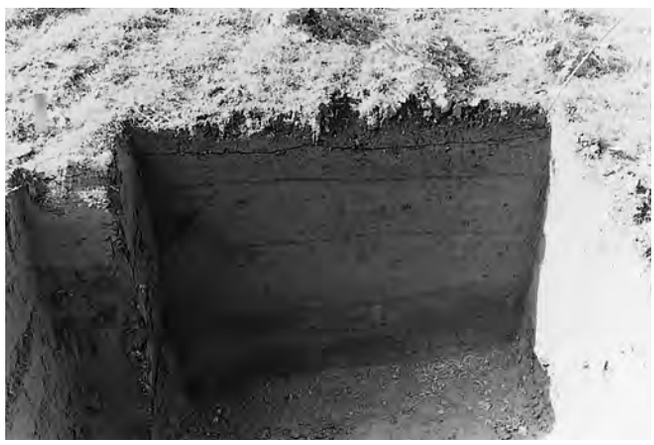
埋没谷検出状況

埋没谷一部完掘状況

調査風景

乙払込遺跡遠景

埋没谷完掘状況（5L-c）



4K-c土層断面（A-A'）

下ノ切遺跡，乙払込遺跡

5K-5L トレンチ土層断面（B-B'）

調査風景

乙払込横穴遠景

乙払込横穴近景

1 号横穴

2 号横穴

3 号横穴

4 号横穴

乙払込遺跡，乙払込横穴

長谷下遺跡遠景

溝完掘状況

埋没谷完掘状況(1)

埋没谷完掘状況(2)

１号土坑（東から）

２号土坑

遺物出土状況（土師器坏）

調査風景

長谷下遺跡

調査風景（平成13年度）

１号住居跡（平成13年度）

１号住居跡（平成13年度）

土層堆積状況（平成13年度）

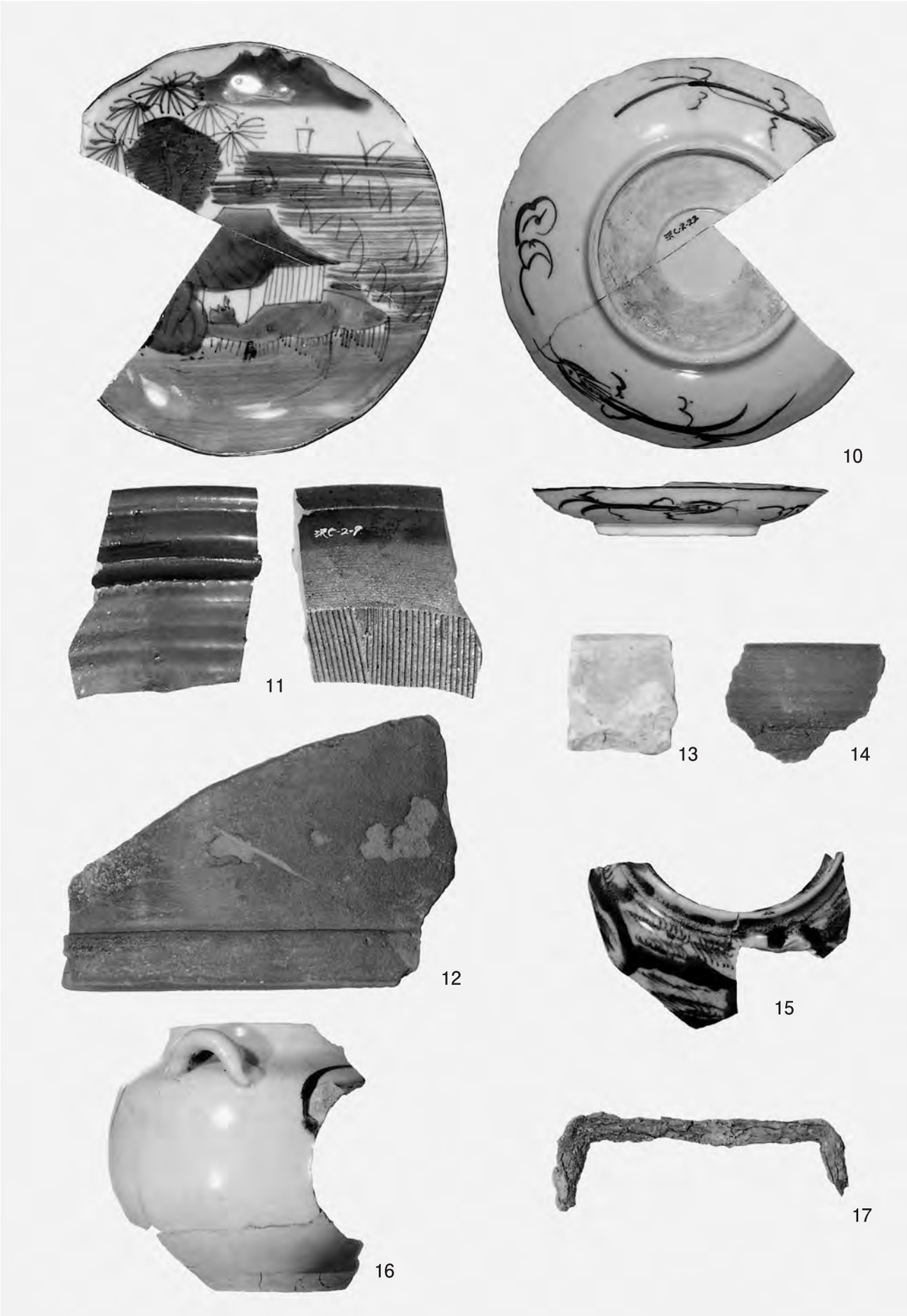
調査風景（平成14年度）

１号住居跡（平成14年度）

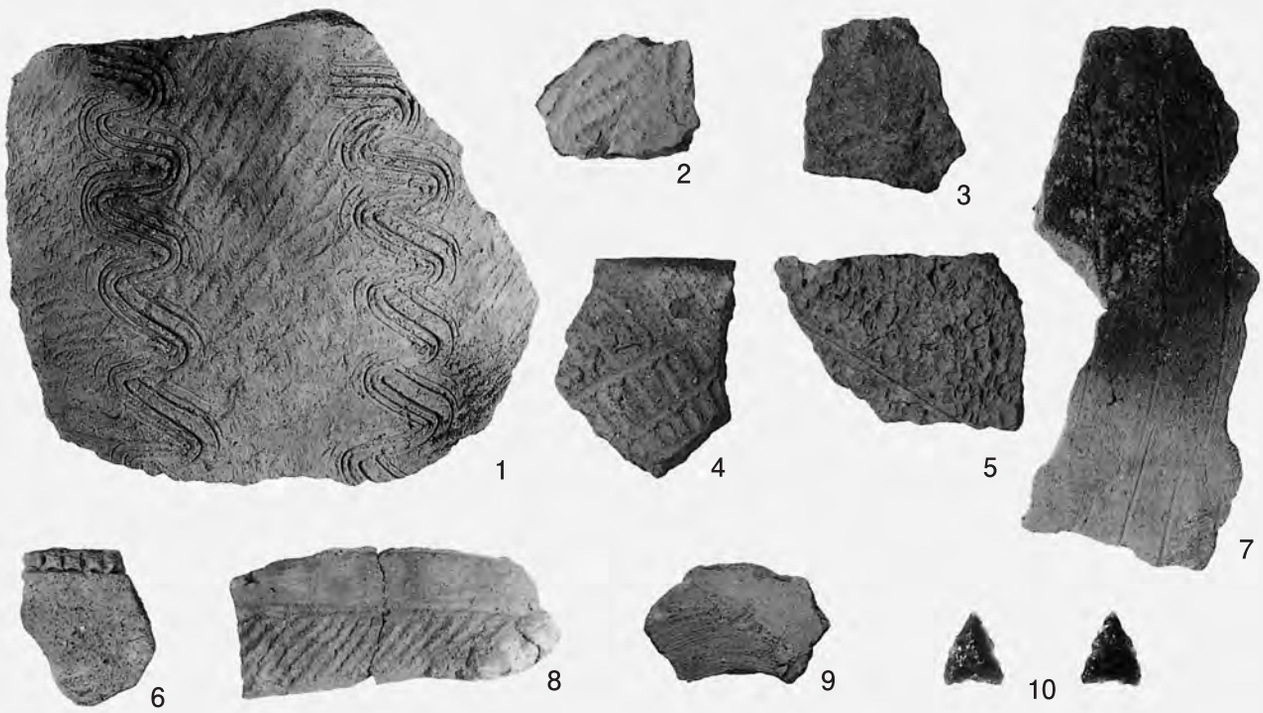
１号住居跡遺物出土状況（平成14年度）

１号住居跡カマド（平成14年度）

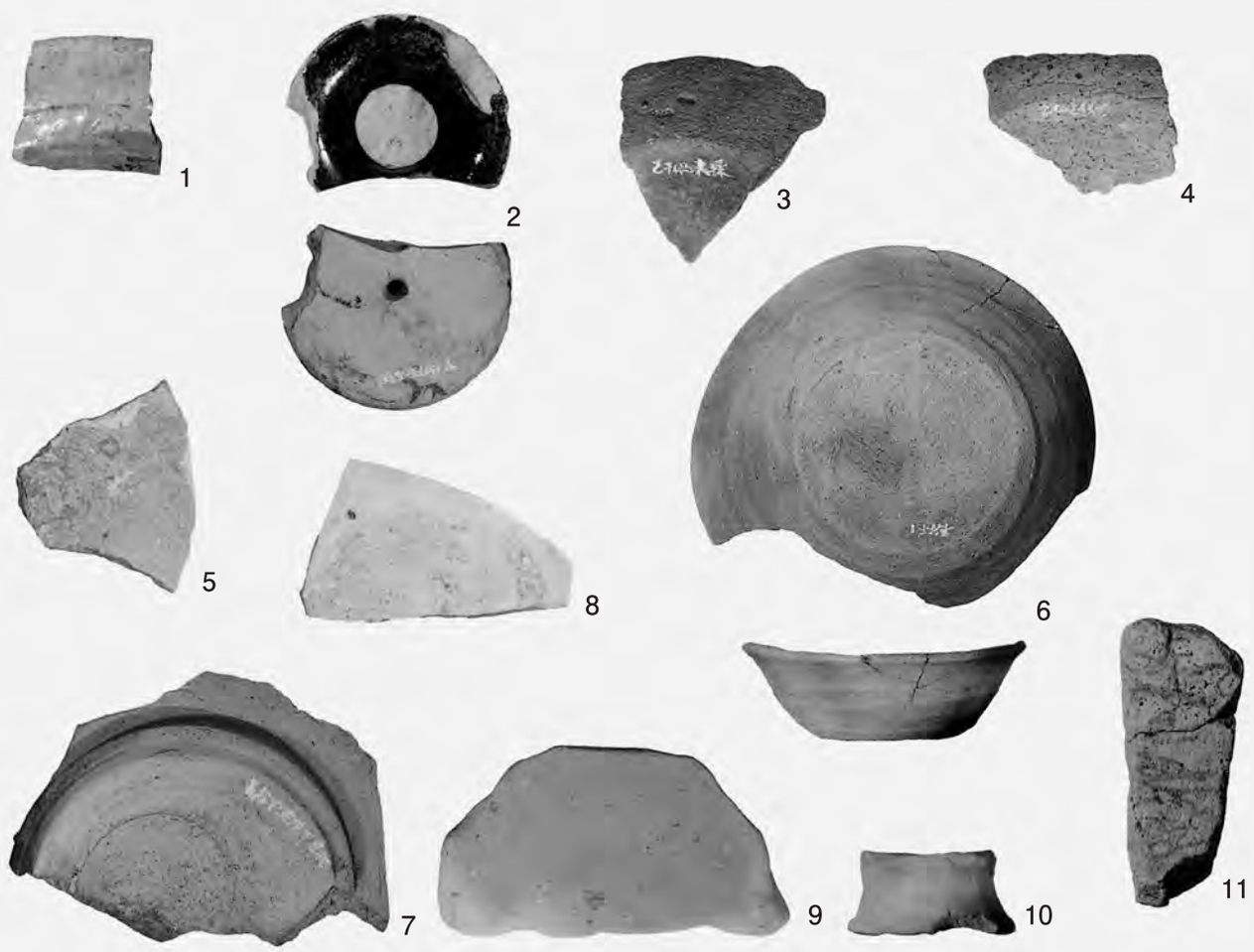
沢遺跡近世以降遺物(1)



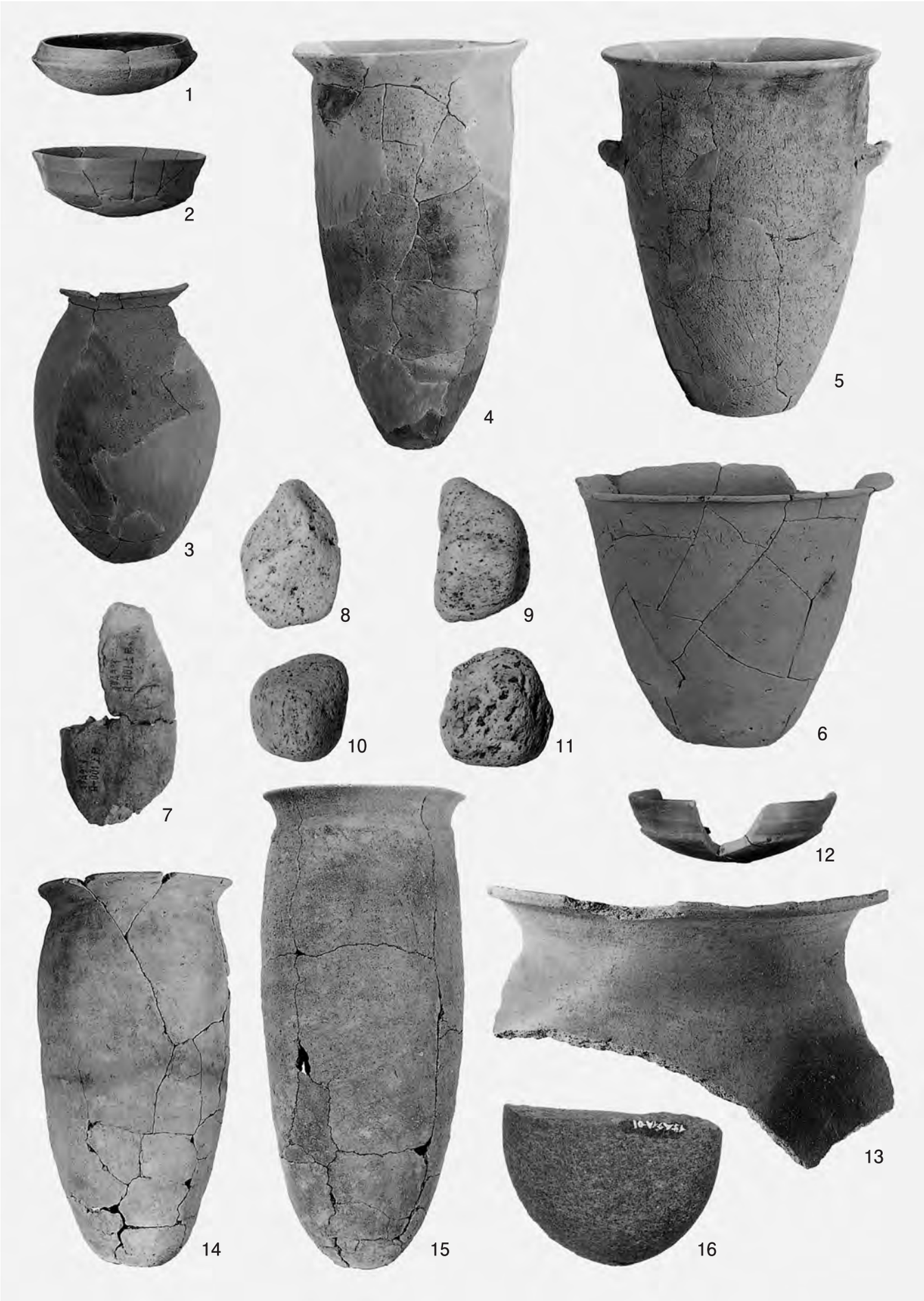
沢遺跡近世以降遺物(2)



沢遺跡遺構外出土遺物



下ノ切遺跡，乙払込遺跡，長谷下遺跡出土遺物



居寒台遺跡１号住居跡出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばし　さわいせき　しものきりいせき　おっぱらいこみいせき　はせしたいせき　いさむだいいせき
書名	千葉市　沢遺跡　下ノ切遺跡　乙払込遺跡　長谷下遺跡　居寒台遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	古谷　渉
編集機関	財団法人千葉市教育振興財団
所在地	〒260－0814　千葉市中央区南生実町1210　　TEL　043－266－5433
発行年月日	2004年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯（旧測地系）	東経（旧測地系）	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
沢遺跡（さわ）	若葉区野呂町（わかばくのろまち）622番の一部	12104	若葉区－433	35°34′52″	140°14′03″	20021201～20030115	上層 451/4,800㎡ 下層 130/4,800㎡ 本調査 300㎡	公民館建設
下ノ切遺跡（しものきり）	緑区小食土町（みどりくやさしどまち）174番	12104	緑区	35°30′59″	140°17′51″	20021001～20021129	697㎡	農業基盤整備
乙払込遺跡（おっぱらいこみ）	緑区小食土町（みどりくやさしどまち）111番１他	12104	緑区	35°31′14″	140°17′55″	20021001～20030131	335/4,265㎡	農業基盤整備
長谷下遺跡（はせした）	緑区小食土町（みどりくやさしどまち）305番の一部	12104	緑区	35°30′56″	140°17′47″	20021001～20030327	806.86㎡	農業基盤整備
居寒台遺跡（いさむだい）	花見川区浪花町地内（はなみがわくなにわちょう）	12104	花見川区－130	35°39′23″	140°4′21″	20030310～20030314	50㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沢遺跡	包蔵地	縄文時代中・後晩期 奈良・平安時代 近世以降	炭窯９基 土坑２基 道路跡１条	縄文土器・石鏃（黒曜石製） 土師器 陶磁器・瓦器・ガラス製品・鉄製品	
下ノ切遺跡	包蔵地	古墳～平安時代 近世		土師器・須恵器 近世陶器	埋没谷
乙払込遺跡	包蔵地	古墳～平安時代 近世		土師器・須恵器 近世陶器	埋没谷
長谷下遺跡	包蔵地	古墳～平安時代 中世	土坑３基 溝状遺構２条	土師器・灰釉陶器 中世陶器・砥石	埋没谷
居寒台遺跡	集落跡	古墳時代後期	竪穴住居跡１軒	土師器 管状土錘・軽石・敲石	北関東系の有段口縁坏が出土

－千葉市－
沢遺跡･下ノ切遺跡･乙払込遺跡
長谷下遺跡･居寒台遺跡

平成16年３月31日発行

編集・発行　千葉市教育委員会
千葉市中央区問屋町1－35
財団法人　千葉市教育振興財団
埋蔵文化財調査センター
〒260-0814　千葉市中央区南生実町1210
TEL　043－266－5433

印　　刷　株式会社　正　　文　　社
〒260-0001　千葉市中央区都町1－10－6
TEL　043－233－2235